

2015年度 年 報
—自己点検・評価報告書—

天使大学大学院助産研究科

はじめに

教員には、計画し実行した教育・研究活動について自らが評価して改善していく PDCA サイクルによる自己点検評価が求められます。本学では自己点検評価委員会に、自己点検評価に関する方針・実施基準に基づきその実施・報告に関する事項を担って頂いています。2015年度の自己点検評価結果については、報告書の発行に先立って3月の教育研究評議会に報告して頂き、全学的に点検評価の結果を共有しました。今後は評価点検結果に基づき対応・改善するための「Act」の部分について本学のシステムを構築する必要があります。その一環として2015年度は学生による授業評価に応える教員側の対応について、また、授業評価の項目についてもFD委員会において検討して頂きました。その検討結果を教育研究評議会や教授会等で共有し、講義・実習等の改善に生かしていくことを願っております。大学という有機体の前進のために自己点検評価委員会が引き続き、本活動を熱心に推進して下さることを期待しております。

ところで、2015年度の教学の重点目標の一つに大学院の充実を挙げましたが、専門職大学院としての充実した実習の遂行のためにさらなる教員の充足が必要です。また、研究時間の確保や新任教員への教育・研究支援のためにも市内の臨地実習先確保等による教員負担の軽減が必要と考えております。

さて、ここに、2015年度年報をお届け申し上げます。学外関係者の皆様には、平素の本学の運営へのご理解、ご支援を深く感謝申し上げますと共に、本年報にお目通し頂き、ご意見、ご批判を頂きたく存じます。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

2016年6月

天使大学
学長 武藏 学

自己点検・評価報告書

目 次

I. 教育課程	1
II. 院生の受け入れ	2
III. 教員組織	3
IV. 研究活動・研究環境	4
V. F D活動等	6
VI. 社会貢献	12
VII. 国際交流	13
VIII. 学生生活・就職支援	14
IX. 図書館	17
X. 情報処理システム	18
XI. 施設・設備	19
XII. 管理運営	20
XIII. 財務	21
XIV. 事務組織	22
XV. 自己点検・評価活動	23

I. 教育課程

担 当： 助産研究科教務委員会（教務）

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 修了時到達目標の明確化（継続） 2. 実習環境の充実を図る（教員・実習指導教員の充足等） 3. 実習評価の検討（継続） 4. 実習施設の開拓（継続）
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 修了時到達目標の明確化 <ol style="list-style-type: none"> 1) 修了時到達目標達成のために、各科目および各実習目標を段階的に設定し、知識・技術・態度面の評価について確認を行っている。院生へのフィードバックは実習担当教員のほかメンター教員とも面談により行っている。 2) 修了前の2月末には、最終面接試験を行っている。複数の教授が、①助産観 ②助産師像 ③自己認識 ④教育理念等について質問し、助産研究科における授業・演習・実習を通して得た学びが、今後の行動化や社会貢献につながるのか聞いている。自分の言葉で、自信を持って述べる院生に専門職大学院としての教育効果を実感した。 2. 実習施設に遠隔地が多いこと、実習が長期にわたること、24時間オンコールが数週間あるなど、実習や生活面においても環境整備が必要である。多くの実習施設が看護職員寮等の宿舍の都合をしてくださり、院生の利便性と実習中の安全が図られている。また、遠隔地で新たに実習指導教員が得られ、定着する傾向がある。このことは、地方の周産期状況や助産師の地域活動を知るなど院生の学習効果を高めている。また、実習の状況によっては休日取得が困難な専任教員にとっても、実習指導日の調整が可能となり、実習環境の充実に寄与している。 3. 基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの評価に「ルーブリック評価」を取り入れた。院生は実習半ばで自己評価し、その結果を教員と話し合うことで後半の課題を以前にもまして明確にできるようになった。さらに院生の主体的な自己学習につながる評価表へと検討を重ねていきたい。 4. 全国的に分娩件数が減少していることから、一施設における実習院生数は2～3人の現状である。そのため、今後、実習施設数を増やす必要がある。しかし、実習指導可能な教員の不足から、今年度は実習施設の新たな開拓は見送った。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習指導環境の充実 2. 実習評価の検討
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>修了時の到達目標の達成のための取組を行い、教育効果を高めていることは評価します。実習施設、実習に関する環境整備、実習指導教員等に関することについて、今後も継続して検討されることを期待します。</p>

II. 院生の受け入れ

担当： 助産研究科入試・広報委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 限られたマンパワー・予算の中で、「アドミッション・ポリシーに適った志願者」が増加するよう、広報効果の最大化を図る。 入試ミス防止に十分配慮するとともに、円滑で遺漏のない入学試験の実施・運営に万全を期する。
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 活動目標を達成するために行った活動と評価は以下のとおり。 <ol style="list-style-type: none"> 助産研究科パンフレットについて、昨年度より完成時期は早まったものの、当初目標としていた6月中旬には間に合わなかった（7月下旬完成）。 6月の天使祭でミニオープンキャンパスを開催し、参加者は13名（昨年度13名）と、例年並みであった。 8月に開催したオープンキャンパスでは、参加者数は20名（昨年度23名）と減少した。新しい企画として、院生による「模擬母親学級」を実施した。また、「ユーストリーム」によるライブ配信を行い、視聴者数（アーカイブ）は199名（昨年度99名）と増加した。 道内看護系大学の母性看護学担当教員等への訪問を行い、本研究科の強みを直接伝えるとともに、大学内での説明会開催を打診した結果、オープンキャンパス前に2大学で説明会を開催した。 本学看護学科学生（3、4年次生）に対する学内説明会を実施したが、特に4年次生については、実習前の時期ということもあり、参加者は減少した。 助産研究科らし・ポスター・パンフレット・学生募集要項を病院・看護大学等に一斉送付した。 「オープンキャンパスの開催」や「入学試験の出願開始」を告知するため、資料請求者等に対しメールマガジンを配信した（年5回）。 推薦入学試験、前期試験（一般入学試験、社会人入学試験）、後期試験（一般入学試験、社会人入学試験）を実施した。試験前に入試・広報委員長による試験問題の最終チェックを行うなど入念に準備を進め、全体として円滑に入試業務を遂行した。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 助産研究科パンフレットは、「6月のミニオープンキャンパス」時に配布できるよう、完成時期を早期化させる。また、全体の文字量を減らし、見出し等を効果的に使うことで、より訴求性の高いものにする。 助産研究科のwebサイトページの内容を充実させる。その際、他の大学院との違い等訴求内容が伝わりやすいよう内容を工夫する。また、本研究科のターゲット（看護学生、看護師、助産師）がそのページを訪問しやすくなる導線を作る（SEO、リスティング広告、行動ターゲティング広告等）。 8月オープンキャンパスの動員および出願者を増加させるため、道内看護系大学への訪問や、病院に対して助産師資格の取得を目指すスタッフへの告知依頼、オープンキャンパスの魅力あるコンテンツの検討（簡単な助産の体験学習等）を行う。 助産研究科広報資料について送付内容・回数を充実させる。その際、看護系専門学校卒者の出願が可能であることも告知する。また、「看護系予備校（助産師養成校への進学希望者対象）」にも積極的に案内する。 天使大学 看護学科学生に対する広報活動を強化する。特に「早期からの掘り起こし」に注力する。 <ol style="list-style-type: none"> 看護学科学生に向けた、授業公開や院生との交流会の実施を検討する。 助産研究科パンフレット・ちらしを看護学科全学生に配布する。 アッセンブリー・アワー等で「誕生」や「命」等のテーマで助産研究科教員が講話を行うことを学部働きかける。 入試ミス防止に十分配慮するとともに、円滑で遺漏のない入学試験の実施・運営に万全を期する。
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>多様な広報活動を展開されたことを評価します。活動目標が「広報活動の最大化を図る」とありますが、最大化により志願者の増加を図る、迄明示することで、評価、対策と連携すると考えます。パンフレット作成が遅れ6月のオープンキャンパスに間に合わなかった原因分析も改善のため必要と考えます。道内母性看護学教員訪問で得た、本学助産に対する意識・ニーズの分析が見えると改善に繋がると思われます。1年コースとの差別化と共に問題となる授業料への対応として、奨学金に関する具体的な提示と、奨学金の拡充についても必要と思われます。卒業生を活用し、就職後の1年コースとの相違について説明するなど、2年コース大学院教育が助産師活動においての重要性、利点のアピールなど、志願者増加へのより一層の工夫に期待します。入学試験に関しては、留年等の分析により入学試験との関連から、試験の精度に対応できることを期待します。</p>

Ⅲ. 教員組織

担 当： 助産研究科教務委員会（教務）

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習に関わる教員の充足（継続） 2. 助産基礎・教育分野における教員組織の強化 3. 専門職大学院における教員のキャリアラダーの検討
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新任の准教授1名を迎えた。現在の当研究科教員組織から、今後、助産師としての卓越した臨床経験を持ち、助産師教育を志向する若手教員の採用が急務であると考え。また、新規の実習指導教員を複数確保することができた。実習施設が遠隔地であり、実習期間が長期であることから、現地助産師が実習指導教員として加わることは、地域の特性や周産期状況についても有用な情報共有ができ、院生への学習効果に貢献すると考えられた。 2. 助産教育分野および基礎分野の授業担当として、新任の准教授1名を迎えた。 しかし、一人の教員が担当する授業時間数は、非常に過密な状況を改善するには至っていない。助産教育分野および基礎分野の院生に対して適切な学習指導、授業研究を可能とする担当時間数に調整する必要がある。そのために、当助産研究科教員に相応しい人材確保および育成が必要である。 3. 大学の常任委員会のうち八つの委員会に専任教員が委員としてはいり活動した。今後も、各委員会活動をとおして、大学全体の教育の質の向上および地域社会に貢献するとともに、各教員のキャリアとしていきたい。キャリアラダーについては、昨年度に引き続き検討中である。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員組織の強化（継続） 2. 院生の学習支援の強化
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>専門職大学院としての充実した講義・実習の遂行のためにさらなる教員の充足が必要です。研究時間の確保や新任教員への教育・研究支援のためにも市内の臨地実習先確保等による教員負担の軽減が必要と考えます。また、実習に当たって、教員の過密な担当時間、大学院生の準備不足や過度の緊張などへの配慮が必要と思います。（学長）</p> <p>教員組織のさらなる強化に向けて、院生の学習支援に十分に取り組めるように、若手教員の採用と離職の予防等を期待します。（自己点検委員会）</p>

IV. 研究活動・研究環境

担 当： 学術振興委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究意欲の発揚と共同研究推進のために研究報告会の定例開催を行う。 2. 紀要第 15 巻第 2 号, 第 16 巻を発刊する。 3. 競争的外部資金導入のための情報を収集と研究環境整備について検討する。 4. 研究に関する「よろず相談」を継続し, 若手研究者育成のための方策を検討する。 5. 本学リポジトリの収録コンテンツに関する整備を行う。 6. 本学の教育研究に関する講演会を企画・実施する。
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期研究報告会は, 2015 年 8 月 4 日 (火) に開催し, 紀要執筆者 2 名, 新任教員 2 名の研究発表が行われた。後期研究報告会は, 2016 年 3 月 17 日 (木) に特別研究費による研究 10 件を行った。 2. 紀要は再募集を行った第 15 巻 2 号と第 16 巻の第 1 号及び第 2 号を発刊した。投稿者が激減していることについては, 研究に関するアンケート調査結果を参考に次年度詳細な検討を行い, 対応策を提示する。 3. 今年度の科研費採択数は新規 1 件を含む計 4 件に留まった。申請件数は計 13 件。 4. 若手研究者の多様な質問に応じることができるよう相談時の体制を確認した。また, 研究に関するアンケート調査を実施し, これに基づき若手研究者育成のための提言を行う (項目 7 参照)。 5. 過年度を含む博士論文と紀要論文及び研究ノートの掲載が最新分まで完了した。次年度から, 学会誌, 商業誌に投稿された本学教員の論文について, 収集方法などを具体的に検討し, リポジトリ構築の基礎固めをする。 6. 本学教員の研究促進に関する講演会を企画し, 好評を得た。 前期講演会は 2015 年 6 月 17 日 (水), 北海道大学病院の佐藤典宏教授による『臨床研究の考え方, 進め方—臨床研究所学者のための基本—』 後期講演会は 10 月 21 日 (水), 新潟県立大学人間生活学部の村山伸子教授による『健康日本 21 (第二次) における栄養対策—国・自治体の動向と大学の役割』 7. 研究に関するアンケート調査の評価と提言 本学の教員は教育や実習など研究以外の時間が多く, 研究の実施または指導の時間が少ない現状にある。また若手研究者の育成方針が明確でない。このため, 若手研究者育成のため, 以下の提言を行う。 1) 組織の見直し: 教員定数の充足, 助手・助教の定員増。 さらに研究指導者と若手研究者の 1 対 1 の研究指導体制を構築する。 2) 研究費枠の増設 8. 今年度は助産研究科からの科学研究費, 特別研究費への応募がなかったが, 来年度に向けて研究費獲得と研究活動の推進をしていく。
<p>次年度への課題</p>	<p>例年の活動目標 1~6 について, これまでどおり実施する。 学術振興には若手研究者育成が重要であるため, 前記 7 の提言実現が望まれる。 また, 助産研究科としての研究活動 (論文執筆, 学会発表, 教育評価と教材開発) を推進してゆく。</p>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>昨(2014)年度と同様, 助産研究科独自の自己点検活動がすすめられており, 評価できます。</p>

IV. 研究活動・研究環境

担 当： 研究倫理委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 迅速な倫理審査の実施 2. 新倫理指針に合わせた委員会規程の改正とそれに伴う一部事業の予算化 3. 研究倫理に関する研修活動と情報提供
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今年度の申請から「天使大学における倫理審査のためのチェックリスト」も添付することとし、必要書類等の事前確認を申請者自身が行うようにした。しかし実際には、必要とされる書類や文言等が欠けるなど、内容をよく理解しないまま、ただチェックをした申請も多く、このチェックリストが十分に活用されたとは言い難い。今年度は全体で38件（内、取り下げ3件）の研究倫理審査申請があり、各申請に対しては、事務局を担当している財務室スタッフおよび委員長が最初に申請書類等を確認しているが、申請者本人のチェックが不十分なものがあつたため、その対応に相当の時間を要した。よって、次年度は、チェックリストの適切な使い方について、事前に周知徹底させる必要がある。 なお、研究期間の延長等、軽微な研究計画の変更については、届け出の書式を作成し、手続きの迅速化を図ることができた。 2. 国の新指針「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に合わせた、本委員会規程の改正を規程等検討委員会および教育研究評議会に提案した。具体的な改正点としては、委員会構成員の変更（複数の外部委員、ほか）や迅速審査の導入、委員会審議事項へ利益相反も明記、など、いくつかの修正等を行った。 また、それに合わせて、今回初めて研究倫理委員会としての予算を計上し、外部委員の人件費や、研修会へ外部講師を招く際の謝金、学外の研修会等に委員が参加する際の旅費等を盛り込んだ。 3. 従来同様、年度始めの早い時期に、本学での研究倫理審査申請の仕方等のガイダンスを実施した。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外部委員を含めた新しい委員会構成の下で、従来通りの迅速な研究倫理審査を実施することが必要であり、その実現に向けた具体的な新たな取り組みが課題となる。 2. 国の新指針に基づき委員会業務を遂行すること。たとえば、研究倫理に関する研修会の実施や、インターネットを利用した研究倫理の研修等の案内、など。 3. 研究倫理に関する啓発活動と情報提供。学術振興委員会等、他の委員会とも連携しながら、研究倫理に関する情報提供を広く行うこと。
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>昨(2014)年度の指摘にあつた、昨年度の課題と本年度の活動目標との整合性がわかり易く改善されました。PDCAサイクルの意識がみられます。</p>

V. FD活動教育活動

担 当：FD委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. FD研修会の開催： カリキュラムを中心としたFD研修会を開催する。 2. 学生授業評価アンケートの実施と活用について：項目等の見直しと集計結果を基にした全学的な授業改善体制を再検討する。 3. 授業概要・シラバスの記載方法の見直し（2013年度までのFD研修会効果検証） 4. 外部研修会に委員を派遣し、積極的に情報収集する。
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大阪大学教育学習支援センター副センター長であり全学教育推進機構准教授の佐藤浩章先生を講師に迎え、FD研修会を3月に開催した。テーマはアクティブ・ラーニング（以下ALと略す）の導入や実習、演習などで問題となる課題である「パフォーマンス評価」とした。現状と将来に即した内容であり、アンケート結果からも満足度の高い研修会を開催できた。 2. 「学生による授業評価アンケート」の実施がFD委員会に移管されたことを受け、アンケート項目、実施方法、集計表、委託業者等を見直して、2016年度から運用できる体制づくりを行った。 アンケート集計表に科目責任者が記載する「改善の方策」欄を設けたり、集計結果の公表を年度内に済ませるスケジュールとしたりするなど、「アンケート」集計結果を活用して全学的な授業改善につなげるための一歩を踏み出した。 3. 教務委員会から「アンケート」の実施と見直しが移管され、2016年度からの実施に向けて検討したが、アンケート項目については各研究科・科・学科会議を経ての決定となるなど、各所との調整に時間を要したことで当初計画より遅延した。そのためこの項目を実施することができなかった。 4. 昨年度同様に京都で開催されたFDフォーラムのほか、ALに関する研修にも参加するなど、積極的に情報収集した。 5. ～7. 別紙参照
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新版「アンケート」を円滑に実施して授業改善を促すとともに、その集計結果を基にした全学的な授業改善を進めるため体制を検討する。 2. 2015年度に実施しなかった授業概要・シラバス記載方法の研修効果を検証する。 3. 評価表の検討・作成（独立助産実習・統合実習Ⅱ） 4. 授業科目の内容検討の続行。
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>「学生授業評価アンケートの実施と活用」がなされ、全学的な授業改善の第一歩が踏み出したことは評価できるが、「授業概要・シラバス記載方法の研修効果の検証」も含めて、さらなる改善を次年度にも期待したい。</p>

【活動内容の評価】

5. 実習評価法の検討

- 1) 基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのルーブリック評価表を作成した。
- 2) 基礎実習オリエンテーションで、院生にメリット、評価方法（形成評価・総括評価）課題の明確化について解説した。
- 3) 6月15日から8月13日までの9週間の基礎実習で使用した。
- 4) 昨年の統合実習Ⅰでのルーブリック評価と同様に
 - (1) 院生と教員間の評価の一致率が高い。
 - (2) 院生の評価のバラツキ（高い評価、低い評価）がない。
の結果を得た。
また、さらに
 - (3) 出産期・産褥期は1事例終了後毎、妊娠期は1週間毎の形成評価を実施することで、
その後の実習の目標が明確となり、行動変容がみられ、昨年より実習評価が向上した。
- 5) 統合実習Ⅰは2年目に当たり、ルーブリック評価表の見直しを行い、実習目標4)「助産師としての職業倫理に基づいた行動を習得する」の評価基準7項目のうち7)の「準備性」に自己学習、身だしなみを追加し、実施した。その結果、院生の自己学習の認識が向上し、主体的に準備性を高める院生が増加した。

6. 助産研究科FD研修会

- 1) 第1回：4月1日—2014年度統合実習Ⅰのルーブリック評価表の分析
- 2) 第2回：4月8日—実習一覧作成し、実習目的、目標、内容、方法の見直し
- 3) 第3回：4月9日—基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実習要綱見直し（各領域別）
- 4) 第4回：4月10日—基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実習要綱見直し（各領域別）
- 5) 第5回：4月16日—基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実習要綱見直し（全員）
- 6) 第6回：4月20日—基礎実習Ⅰのルーブリック評価表の作成
- 7) 第7回：4月27日—基礎実習Ⅱ・Ⅲのルーブリック評価表の作成
- 8) 第8回：9月24日—授業科目内容の見直しのための方向性の検討
- 9) 第9回：10月2日—授業科目ごとの内容表記の照らし合わせ
- 10) 第10回：10月7日—発展展開科目の見直し
- 11) 第11回：10月13日—ミニマム・リクワイアメンツと科目内容の照らし合わせ①
- 12) 第12回：10月16日—ミニマム・リクワイアメンツと科目内容の照らし合わせ②
- 13) 第13回：10月19日—ミニマム・リクワイアメンツと科目内容の照らし合わせ②
 - ①基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのルーブリック評価表を作成し使用することで、2つ（5に記載）効果を得た。
 - ②基礎分野の全科目の見直しをすることで、内容の重複、欠落が明確となり、授業に活かすことができたが、次年度も継続検討とする。

7. 臨床指導者FD研修会

2016年3月17日（木）10:00～12:30 天使大学大学院助産研究科 8306講義室

テーマ「効果的な実習指導のあり方～理論を通して～」

講師：天使大学大学院 特任教授 近藤潤子 先生

参加者：臨床指導者14名＋教員7名＝21名

評価は検討中。

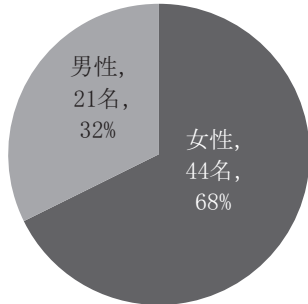
VI. 社会貢献

担当：地域連携等委員会

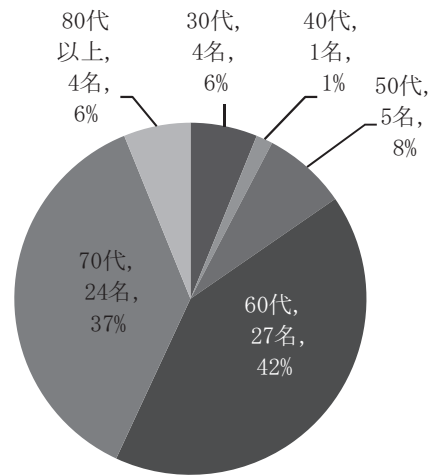
<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2015 年度天使大学・北海道薬科大学公開講座の実施・運営及び 2016 年度公開講座の企画・検討 2. 東区役所との連携事業及び 5 者（東区役所、本学、札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部、専門学校北海道体育大学校、札幌保健医療大学）連携事業の推進 3. 大学間（北海道薬科大学等）の連携事業等の展開 4. 地域・他大学との連携事業の実態把握
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 北海道薬科大学（以下、「薬科大」という）と連携した公開講座は今年度で 5 回目である。薬科大と連携することにより、医療、薬、看護の分野から生活に役立つ情報をわかりやすく解説する講座を実施することが出来た。受講申込者は 2014 年度と比較すると 22%減少したが、アンケート結果（別紙 1）より受講者からの評価は高く、地域住民への有意義な講座を実施することができた。今後も、地域住民にとって有益な企画を立案していく。 2. 東区役所と連携し地域住民対象に 9 件の事業を行った。各事業とも本学教員と学生ボランティアが協力し、本学の質的資源が地域住民に還元されたことは評価できる。これらの事業に関して継続できるようサポートする。 東区 5 者連携事業として、委員会が 2015 年 10 月実施の「ひがしく健康・スポーツまつり」で「天使大の健康塾」の企画・運営を行った。今年度より講座型の公開講座より地域住民参加型となり本学は学生ボランティア協力のもと、食事バランスチェック・血圧測定を行った。説明が解りやすく参考になったと好評で、今後も委員会として充実した企画・運営を行っていく。 3. 大学間連携として、薬科大が主体で実施している夕張地域医療体験への学生参加者の募集を行い、事前準備・事後の報告会を行った。今後も薬科大と連携して継続していく予定である。 4. 本学と地域・他大学との連携事業の実態を把握し、次年度以降も継続する。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公開講座で薬科大と連携することの利点を生かし、企画、運営について検討する。 2. 5 者連携事業である「ひがしく健康・スポーツまつり」の「天使大の健康塾」について学生の参加を募り、充実した企画にする。 3. 薬科大との連携事業では、夕張地域医療体験への学生参加者の支援、連携内容について薬科大から提案されたことについて検討する。また、他大学との連携等についても検討する。 4. 本学教職員が地域・他大学と連携する事業等を掌握し、地域社会へ貢献している現状を整理する。
<p>評価委員会からの評価</p>	<p>北海道薬科大学と連携した公開講座に対して、受講者からの高い評価につながったことは評価できます。今後も有意義な講座運営を期待します。</p> <p>地域住民参加型となった東区 5 者連携事業で、学生ボランティアを含めた「天使大の健康塾」の企画・運営は、今後の在宅支援などにつながるものとして評価します。より一層充実した活動を期待します。</p>

回答数: 65

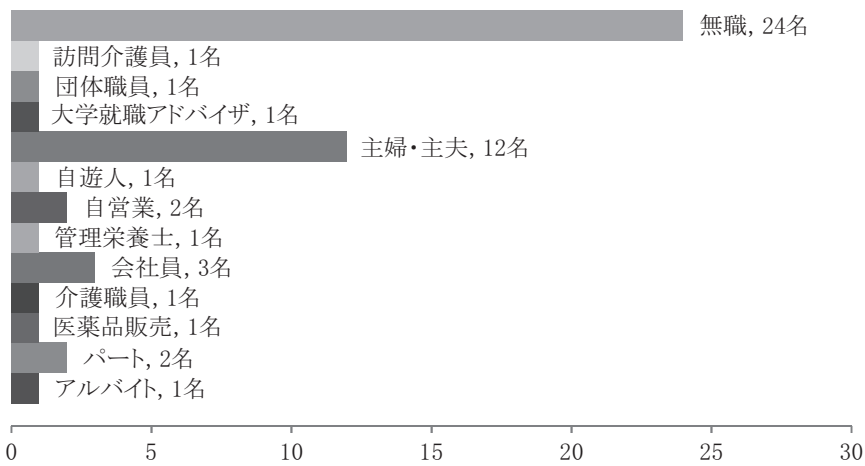
1.1) 男女別



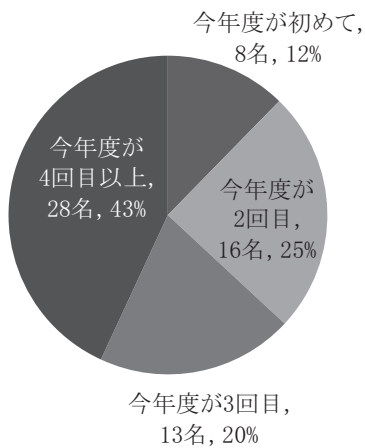
1.2) 年齢別



1.3) 職業別



2. これまでの参加回数



3. 媒体(複数回答者あり)

チラシ(北海道新聞折込み)	12名	16.4%
掲示ポスター	2名	2.7%
天使大学からの郵便物(ダイレクトメール)	46名	63.0%
新聞掲載	3名	4.1%
広報誌(道民カレッジ等)	9名	12.3%
ホームページ	0名	0.0%
その他	1名	1.4%
回答なし	0名	0.0%
	73名	

●その他(内訳)

- ・天使大学後援会の仕事をしている友人よりの情報(1名)

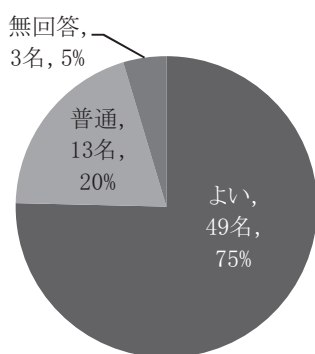
4. 動機(複数回答者あり)

テーマに興味があったので	53名	43.4%
講師陣に魅力を感じて	2名	1.6%
大学連携の公開講座だから	16名	13.1%
通いやすい会場だから	22名	18.0%
参加しやすい時間帯のため	25名	20.5%
その他	4名	3.3%
回答なし	0名	0.0%
	122名	

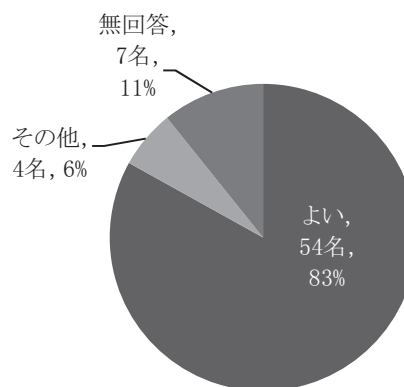
●その他(内訳)

- ・道民カレッジだから(1名)
- ・道民カレッジ連携講座である、また毎回参加している(1名)
- ・日中一人で過ごす事が多い為、外に出て何かを得る事ができるのなら、経済的範囲内において行動することが良いと考えた。(1名)
- ・母が天使短大栄養科卒、私が天使病院で産まれたことが今回の会場と縁があると感じられたので。(1名)

5.1) 全体テーマについて

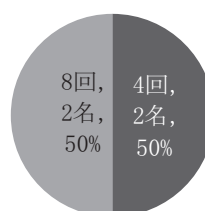


5.2) 回数について

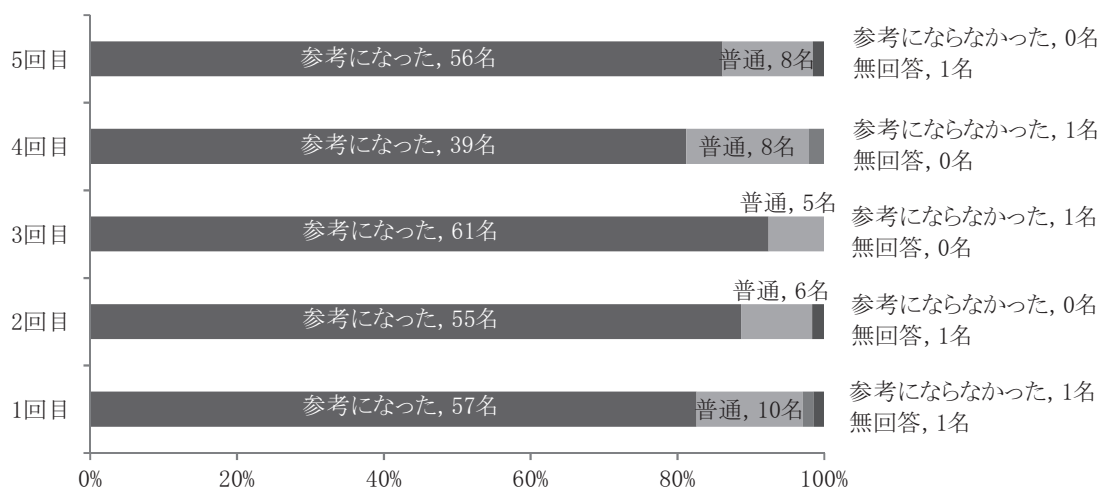
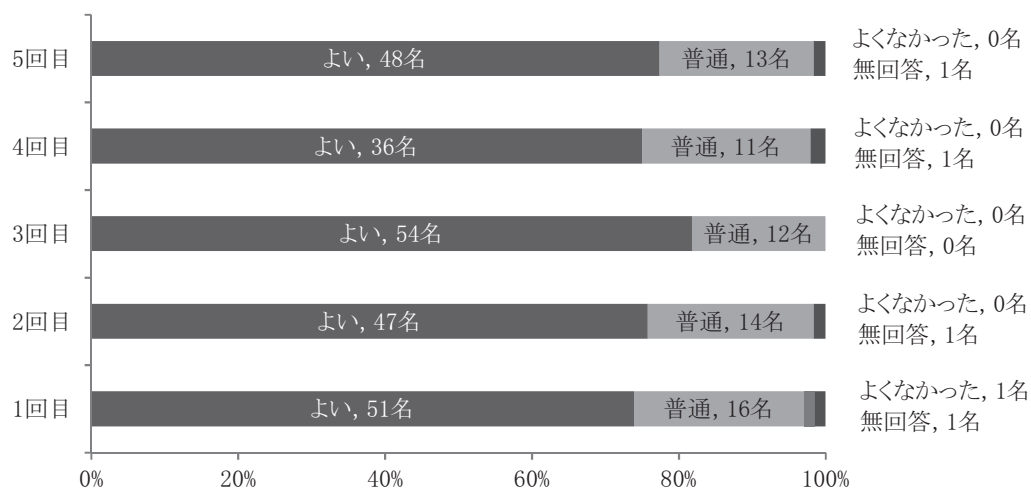


●望ましい回数(内訳)

※5.2で「その他」を選んだ場合



1. 講座の運営について



VI. 社会貢献

担 当： 助産研究科教務委員会（教務）

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関係専門職団体や学会、研修会等による助産師専門職の資質向上へ貢献する。 2. 女性や母子の健康と幸福のために、行政との連携、協働を強化する。
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関係専門職団体や学会、研修会等による助産師専門職の資質向上へ貢献する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 一般社団法人北海道助産師会が主催する研修会に講師派遣を行った。 <ol style="list-style-type: none"> ①「新生児蘇生法」研修：蘇生法の演習インストラクター（教授1名） ②「助産師の倫理と教育」研修：講師（教授1名） 2) 北海道母性衛生学会年次大会の企画・運営をおこなった。 （教授4名、講師1名、助教1名、院生ボランティア） 3) 北海道思春期研究会主催の研究会の企画・運営を行った。 （教授2名、院生ボランティア） 4) 他大学等教育機関に講師派遣を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・災害看護（教授1名） ・保育士資格特別講座（准教授1名） 5) 女子中学校からのピア（院生）による性教育授業の依頼を受け、院生による性教育（思春期教育）授業を2回実施した。（院生8名、教授1名） 6) 実習病院4施設において院生による両親学級（「出産準備教育」）を実施した。 （院生20名、教授1名） 7) 札幌市内の小学校保護者会が主催する学習会に講師派遣を行った。（准教授1名） 8) 本学開催の公開講座に講師派遣を行った。（教授1名） 9) 本学地域貢献プロジェクト「子育てサロン」の企画・運営に参画した。 （教授1名、院生ボランティア） 10) 一般社団法人北海道助産師会の理事（会長、副会長、書記）として活動の企画・運営に参画した。（教授2名、講師1名） 11) 北海道思春期研究会の幹事として活動の企画・運営に参画した。（教授2名） 2. 女性や母子の健康と幸福のために、行政との連携、協働を強化する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 北海道保健福祉部の「次代の親づくり事業」に協力 ピア（院生）による性教育授業を希望した後志地域の男女共学高校において、院生による性教育（思春期教育）授業を実施した。（院生6名、教授1名） 2) 北海道社会福祉協議会からの依頼を受け、研修会に講師派遣を行った。（准教授1名） 3) 江別市健康福祉部からの依頼を受け、保育園職員研修会に講師派遣を行った。 （准教授1名）
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関係専門職団体や学会、研修会等による助産師専門職の資質向上へ貢献する。 2. 女性や母子の健康にかかわる行政等の事業に協力・連携する。
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>「助産師専門職の資質向上へ貢献」および「行政との連携、協働を強化」において、活発な活動が行われ、院生の参加もそれなりにあり評価できる。次年度のさらなる発展に期待する。</p>

VII. 国際交流

担 当： 助産研究科教務委員会（教務）

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際助産実習における院生の安全確保、健康管理を行う。 2. 第11回アジア太平洋地域会議・助産学術集会への参加
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今年度、国際助産を選択した院生5名は、15日間の日程で、マダガスカルのアベマリア産院での実習を行った。現地の安全への配慮として、実習受け入れ側の修道会に空港から実習地域までの送迎を要請した。また、滞在中の宿泊施設は、実習施設敷地内の修道院とし最大限の安全対策をとった。さらに、同行した専任の実習調整指導の教員は3年目で、マダガスカルやアベマリア産院の状況に通じている本学修了の実習指導教員1名を期間中配置した。5名とも実習期間中体調を崩すことなく、健康に過ごし、実習目標を達成することができた。 2. 会期は7月20日（月・祝）～22日（木）。会場はパシフィコ横浜。参加者は教員5名（近藤潤子、園生陽子、山本詩子、神谷整子、高室典子）修了生は基礎分野14名、教育分野4名。在學生は基礎分野2年次生4名、教育分野2年次生3名で計30名が参加した。また、助産研究科の山本詩子教授、神谷整子教授がワークショップ5「日本の助産師の技を受け継ごう」でスピーカーとなり自らの経験を紹介した。高室典子教授はポスター発表を行った。参加した修了生、在學生は国際学会が初めての参加の者もいて、大きな刺激を受け、助産師の仕事に対するモチベーションを向上できた。園生研究科長、近藤特任教授と修了生と現在の職場環境、今後の展望等の情報交換を行い、修了生の動向確認に繋がった。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際助産実習の場所・施設の検討。 2. ICM（カナダ・トロント）の院生参加に向けて、実習期間の調整。
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>「国際助産実習への参加」および「第11回アジア太平洋地域会議・助産学術集会への参加」が技量の向上ばかりでなく、学問的知識の増加、豊かな国際的感覚を養う面において貢献することが大きいと考えられる。次年度も同様に進めてほしい。</p>

Ⅷ. 学生生活・就職支援

担 当：教務委員会（学生生活・就職）

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活全般への支援 2. 学生の健康支援 3. 学生生活実態調査実施 4. 学生課外活動への支援 5. 就職支援
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活全般への支援 <ol style="list-style-type: none"> 1) メンターシップによる学修・生活支援の充実 入学時から学生一人ひとりにメンター（よき助言者）となる専門教員をおき、学習進捗を確認し、学生の専門職者としての自己課題の発見および成長に必要な指示、方向付け、フィードバック等の支援を行った。また、学生生活全般（健康状況含む）についての相談役となり、支援を行った。特に実習前・後には個人面接を実施した。 2) 学生の経済的支援 奨学金は、天使大学奨学金、天使大学同窓会、日本学生支援機構奨学金、日本助産師会奨学金、北海道看護職員修学資金等を紹介し経済的支援を行った。また、地方自治体や団体等の奨学事業も積極的に紹介した。 3) 学生生活ガイドブックの充実 学生生活ガイドブックを発行し、全学生・教職員へ年度初めに配布した。学生生活全般について理解できるよう学生生活ガイドブックの内容を充実させた。 4) 事件事故の予防 実習で夜遅く帰宅することが多いため、「防犯ブザー」を全学生に配布した。また、「護身術」講習を実施し、事件・事故に遭わないよう啓発活動を行った。 5) メディアリテラシー講座の開催 株式会社コンクレティオに依頼し、急増する SNS のトラブルと使用上の注意点等について喚起した。 災害傷害保険（日本看護学校協議会共済会の共済制度「WILL」）への加入を義務づけ、実習中等に傷害・賠償・感染事故が発生した場合の対応策をとった。 2. 学生の健康支援 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健相談室の現状 学生の定期健康診断はセット検診（X線撮影、身体計測、聴力、聴打診、血液採取等）を実施した。また、季節性のインフルエンザ感染予防対策としてマタニティサイクル助産ケア統合 I 実習の開始前に予防接種を奨励し、全員が接種した。 2) 学生相談室の現状 学生相談室の相談員を1名体制とし週5日の開室日を設け、月曜日から金曜日までいつでも相談を受けられる体制を継続した。4月に全学生へ学生相談室員による「ストレスの対処法」についての講話を行った。 3. 学生生活実態調査「天使大学大学院生学生生活についての調査」の実施 教育分野・基礎分野2年次生に修了前に学生生活実態調査を実施した。 4. 学生課外活動への支援 1年次生が合唱コンクールに参加した。 5. 就職支援 <ol style="list-style-type: none"> 1) 1年次生対象に接遇ガイダンス、2年次生対象に就職ガイダンスを実施した。就職活動ガイドブックを配布した。就職相談室の活用及び周知を強化した。 2) 8月に全学生に向け、実習病院による「就職説明会」を実施した。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活全般の支援については、メンターシップの強化を始め、「天使大学大学院生学生生活についての調査」結果を分析し、よりよい学生生活支援を実施するためさらに検討していく。特に遠隔地実習での学習・生活支援の強化も図っていく。 2. 経済的支援として、各種奨学金紹介のより一層の充実を図る。 3. 健康支援については、今後も学生相談室、保健相談室の相談員と連携し、更なる充実を目指す。特に実習開始前に学生相談室と連携し、心身の健康支援強化を行う必要がある。 4. 就職支援については、学生のニーズに応じた支援体制の強化が課題である。 5. 社会問題となっている SNS のトラブルについて、さらなる注意喚起をしていく。
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>「学生生活全般への支援」・「健康支援」・「就職支援」など例年と変わらず十分に行われていることは評価されるが、SNS のトラブルに代表される事件や事故を予防することは非常に重要と考えられる。次年度も「メディアリテラシー講座」などが開催され、学生に対して、注意喚起が十分になされることを期待したい。</p>

VIII. 学生生活

担 当：宗務委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宗務関係行事の企画運営 2. 学生にキリスト教精神を理解してもらう 3. 教職員に建学の精神を理解してもらう 4. 教育理念に即した環境の整備 5. 教育理念に関する研修会への参加 6. カトリックセンターとの連携 7. アssenブリー・アワーの調整
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宗務関係行事関係の企画運営 宗務関係行事の運営については、特別なミサ（イースターの集い、死者追悼のミサ、創立記念日のミサ、クリスマスのミサ、新年のミサ、退職する教職員へ感謝ミサ、卒業・修了感謝のミサ）や毎週のミサ、儀式等（マリア様の戴冠式、クリスマスツリー点灯式、クリスマスキャロル、灰の儀式）、実習前のミサや国家試験の合格祈願ミサ等を通して、学生・教員にキリスト教精神の理解を深めるようにした。 2. 学生がキリスト教精神を理解するための企画 <ol style="list-style-type: none"> 1) 入学時と修了前に修養会を企画してミサや祈りをとおして、「キリスト教」についての理解を促した。 2) 4月に新入生に向け、宗務委員長より、「建学の精神」とキリスト教との関連についての講話をして頂いた。 3) 「カトリック医療関連学生セミナー」参加への広報 学部生5名が参加したが、助産研究科からの参加は実習中のため参加できなかった。 3. 教職員修養会の実施 カトリックセンターが企画し、宗務委員会が協力をして実施した。 今年度は、12月22日に行った。 出席者へアンケートを取ったところ、評価は概ね「良い」であった。 助産研究科は、実習中のため出席した教員は2名であった。 4. アssenブリー・アワーの調整 講義期間中にアssenブリー・アワーを設けると共にプログラムについて調整を行った。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎週のミサの参加率を上げる方策を考える。 2. 修養会の内容の充実についてのさらなる検討。 3. 学生がキリスト教についての理解を深めるためのアssenブリー・アワー内容の工夫と企画。 4. 年末の教職員修養会実施であったため、参加しやすい日程の検討。 5. 「カトリック医療関連学生セミナー」が本学での開催となるため学生を含めた、主催者への協力。 6. シスターの補充をカトリックセンターに要望する。
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>本学の建学の精神の浸透のためにはカトリックセンターと宗務委員会の緊密な連携と、カトリック大学連盟や関連外部団体との企画や行事への学生の参加がより意識を高めるために効果的な方策となることから、今後とも積極的な取組と学生の意識喚起を期待します。</p>

Ⅷ. 学生生活

担 当：キャンパス・ハラスメント対策委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>キャンパス・ハラスメント対策委員会とハラスメント防止委員会の連携を強め、学生、教職員の認識を高める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生へのキャンパス・ハラスメントに関する正しい知識や認識を深めるため、講演会などを実施する。 2. 学生のキャンパス・ハラスメントのための相談窓口や意見箱設置などについての具体的検討と学生への周知を行う。 3. 各委員会と連携・協力し、研修会などを計画・実施して、キャンパス・ハラスメントに関する認識を高める活動を行う。
<p>活動内容の評価</p>	<p>ハラスメント防止委員会との連携を図る必要があるが、学生間と学生教職員間のハラスメントについて規程一本化を求めて規程等検討委員会へ文書を提出したが、受け入れられなかった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キャンパス・ハラスメントに関する講演会を2回開催した。 <ul style="list-style-type: none"> ①6月23日 13:30～14:30 「キャンパス・ハラスメントを考える」 Sr.木村晶子氏（藤女子大学 教授）。対象は看護栄養学部新入生、教職員。 学生の参加状況：看護学科74名(80%), 栄養学科63名(73%)。参加者は昨年よりも多かった。どのようなことがハラスメントになるのか理解できたなどの感想も多数あり、学生の興味と理解を得られた。次年度も引き続き講演会を開催し、さらなる理解を深める。 ②9月29日 13:30～14:30「ハラスメントについて考える」Sr.木村晶子氏(藤女子大学 教授)。対象は大学院1年生、教職員。 参加状況：助産研究科21名。モラルハラスメントに重点を置いた講演内容で、理解を深めることが出来た。次年度も継続的に開催し、さらなる理解を深める。 2. 看護栄養学部新入生へのガイダンスは、7月14日のアッセンブリーアワー「定期試験について」の後に、ガイドラインの配布を行い、委員長より内容の説明を行った。大学院1年生にはガイドライン配付と説明を、本宿委員より行った。 意見箱設置は、設置場所や管理の問題から、今年度は設置が見送られた。 3. 啓発活動のためにポスターを作成し、学内に掲示した。また、8月28日に初めての試みとして啓発DVD上映会を開催した。上映したDVDは3本で各25分程度。参加者は学生1名と教員数名であった。開催日が夏休み中ということもあり参加者は少なかったが、開催時期や開催内容、周知の方法を見直し、学生と教職員双方がハラスメントを学べる貴重な啓発活動として、DVD上映会を継続してゆく必要があると考えている。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新入生へのキャンパス・ハラスメントに関する正しい知識や認識を深めるため、講演会などの全員参加に向けて働きかけを行う。 2. 2014年度に行ったハラスメントに関する実態調査に対し、その分析結果を踏まえて学生が相談しやすい環境づくりを行う必要がある。また、2年に1度程度は実態調査を行うことが望まれる。さらに、意見箱の設置を再度検討し、実施する方向で調整する。 3. 実態調査では、教職員から学生に対するパワハラ、アカハラの訴えが、学生同士のハラスメントを大きく上回っており、ハラスメント防止委員会とより連携を深め、教職員のハラスメントに対する知識や意識を高めることが重要である。 4. 委員の学外研修会参加など、学生からの相談や学内で発生しているハラスメントに、よりの確に対応するスキルを学ぶ機会が必要である。
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>キャンパス・ハラスメントに関する講演会等開催し理解を深める対策を講じていることは評価します。さらに学生、教職員ともにハラスメントについて理解を深め学習環境が向上する検討がされることを期待します。</p>

IX. 図書館

担 当：図書情報委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 機関リポジトリの運用：収録コンテンツの整備計画策定と実施 2. アクティブ・ラーニングを支援する文献検索ガイダンスの実施 3. 図書館ホームページの維持管理と Facebook 機能の活用 4. 洋雑誌の利用頻度調査結果に基づく見直しと電子ジャーナルへの切り替え 5. 将来構想等への新館移築素案の提示（情報処理室を含む） 6. 登録図書の計画的除籍および廃棄（譲渡）と移管研究費図書の再活用の実施 7. 防災対策と必要備品等の準備（情報処理室を含む） 8. 北海道地区私立大学図書館協議会幹事館としての活動（業務研究会開催など）
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 機関リポジトリに関連する教員業績システムについて、導入が決まった。本課と総務課担当者で連携を図り、個々には達成できない研究情報の収集・保存蓄積・活用を図れるよう、今後検討していく。次年度は、整備計画案の策定を行う。 2. 学生、大学院生の要望に応じて、文献検索ガイダンスを実施した。また、担当教員と連携して、以前図書館で行っていた看護3年向けの文献ガイダンスを復活した。 3. 北海道地区私立大学図書館協議会第2回業務研究会を本学で開催し、京都大学図書室の西川真樹子氏を招いて、図書館における SNS の活用について情報提供して頂いた。今後の SNS 運用規程やガイドライン策定に向けて、有益な情報を得ることができた。 4. 利用頻度を踏まえ、各学科・科・研究科から購読打ち切りや新規購入が提案され、利用に見合う雑誌の購読が進められている。 5. 法人と教学が一体で策定し理事会に上げた図書館、情報処理室などの新棟建設計画を含む将来構想が理事会の実施計画として示されないまま、4年が過ぎている。 6. 除籍・廃棄規程に基づき、過年度の退職教員分を優先し、順次除籍作業を進めている。 7. 事務局次長による規程整備や初めての避難訓練が実施された。今後も継続して実施することが求められている。防災グッズについては、予算化が必要と思われる。 8. 北海道地区私立大学図書館協議会幹事館として、前記3で述べたように、第2回業務研究会を本学で開催した。通常の数倍近い40名の参加を得ることができた。次年度も引き続き大学図書館に相応しいテーマで業務研究会を企画し、各館の連携を図れるよう努力する。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 機関リポジトリの運用：収録コンテンツの整備計画策定と実施 2. アクティブ・ラーニングを支援する文献検索ガイダンスの実施 3. 図書館ホームページの維持管理と Facebook 機能の活用 4. 洋雑誌の利用頻度調査結果に基づく見直しと電子ジャーナルへの切り替え 5. 将来構想等への新館移築素案の提示（情報処理室を含む） 6. 登録図書の計画的除籍および廃棄（譲渡）と移管研究費図書の再活用の実施 7. 防災対策と必要備品等の準備（情報処理室を含む） 8. 北海道地区私立大学図書館協議会幹事館としての活動（業務研究会開催など） <p>※メディカルオンライン導入の要望に関して新提案を検討する。</p>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>活動目標に基づき、適切に実施されています。昨年度の評価を活かし、アクティブ・ラーニングを支援する文献検索ガイダンスの実施等、電子ジャーナルの切り替え等図書館サービスの充実の努力がなされています。今後、メディカルオンラインの導入を期待します。学生や教職員が、安全で利用しやすい図書館の環境整備に向けて、防災対策や新棟建設の早期実現が望まれる。</p>

X. 情報処理システム

担 当：図書情報委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバシステム、学内 LAN、無線 LAN 環境、図書館貸出パソコンの整備・維持管理 2. 情報処理室授業支援システム、学内 LAN 掲示板の利用促進 3. 遠隔地実習や講習会実施をするための Live On システムの活用 4. 情報セキュリティに関する情報収集と対策（規程整備など） 5. 事務局内のシステム導入に対応するため、サーバ等の整備を並行して実施
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバシステム、学内 LAN、無線 LAN 環境、図書館貸出パソコン等の整備・維持管理については、総務課併任の専任職員の協力を得ながら、専任職員および嘱託職員各 1 名による体制が維持され、円滑に行われた。 2. 情報処理室授業支援システムおよび学内 LAN 掲示板については、フル活用されており、学生の自習時間確保が難しい状況となっている。大学教育における ICT 活用は必須の事項であり、早急な施設建設等の整備が必要である。 なお、2015 年度末の事務システム導入に伴い、サイボウズに代わる学内 LAN 掲示板の活用が可能となり、次年度構築を目指している。 3. 遠隔地実習や講習会実施を支援するための Live On システムの活用については、助産研究科の教授会や遠隔地の委員を加えた会議など、付随的な課題にも活用された。講義では Live On を使って、演習の状況を情報処理室に中継し、それを見た学生が演習内容の評価する授業（カウンセリング演習）などが行われた。 助産研究科では、遠隔地の実習にあたっては、ノートパソコンやプリンターの貸出を行っている。 4. 公益社団法人私立大学情報教育協会主催の『大学教育セキュリティ研究講習会』に、専任職員 2 名が参加し、規程整備や体制見直しのための情報収集を行った。 助産研究科では、院生室のセキュリティ等の管理を行っている。 5. UNIVERSAL PASSPORT やキャンパス・プラン導入に伴うサーバ増設および構築、導入支援、データ登録支援、資料作成（UNIPA 紹介資料）、出欠管理システム導入に伴う無線 LAN 整備、ユーザ管理などについて、各課と連携し対応した。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバシステム、学内 LAN、無線 LAN 環境、図書館貸出パソコンの整備・維持管理 2. 情報処理室授業支援システム、学内 LAN 掲示板の利用促進 3. 遠隔地実習や講習会実施をするための Live On システムの活用 4. 情報セキュリティに関する情報収集と対策（規程整備など） 5. 事務局内のシステム導入に対応するため、サーバ等の整備を並行して実施
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>無線 LAN 環境、図書館貸出パソコン等利用者の利便性向上の取り組みが実施されている。 アクティブ・ラーニングを支援するためにも、情報処理室を利用しての自習時間の確保は、重要な課題であり、施設整備など大学としての検討が望まれる。</p> <p>Live On システムの多様な活用、既存システムと導入システムの円滑な運用体制の整備、情報セキュリティに関する体制の強化を期待します。</p>

XI. 施設・設備

担 当：財務室

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 中長期計画に伴う新校舎建築計画の立案</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 第2号基本金組入れ計画 第2号基本金は、新校舎建設のため、2009年度から基金造成を行っており、本年度新たに3年間の延長を行うこととし、着実な基金造成に努めている。</p> <p>2. 新校舎建設計画の検討状況 本学園全体のマスタープランの作成と新校舎建設のために顧問建築士とともに検討を続け、構想案を練っているところである。 しかしながら、東日本大震災復興支援事業や東京オリンピックによる建設費の上昇により当初の見込みでは建設が困難であり、施設計画案全体の見直しを行っている。 本学の施設は老朽化が進んでおり、新校舎建築計画を含めた現校舎の改修計画の検討を進める必要がある。</p>
<p>次年度への課題</p>	<p>1. 中・長期計画に伴う新校舎建築計画の立案</p>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>2012年度の課題において「新校舎建築計画の立案」が挙げられて以来、未だ、進捗が明確ではありません。同じ活動目標を数年に渡り掲げながら、明確な進捗がみられない状況は改善の必要があると思われます。</p>

XII. 管理運営

担 当：事務局長

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 教学組織（大学）と法人組織（理事会等）の権限と責任の明確化</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 教学組織（大学）と法人組織（理事会等）の権限と責任の明確化</p> <p>学校教育法及び国立大学法人法の一部を改正する法律及び学校教育法施行規則及び国立大学法人法等の一部を改正する省令が平成27年4月に施行されたことに伴い、文部科学省からは改正法の趣旨を踏まえた内部規則の総点検や見直しが求められ、本学として内部規程全般の見直しを行った。</p> <p>学内規程の見直し作業を進める中で、学校教育法等の改正の趣旨が反映され、教学組織（大学）と法人組織（理事会等）の権限と責任の明確化が進められている。</p>
<p>次年度への課題</p>	<p>1. 学長のリーダーシップが発揮できる支援体制を整える。</p>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>教学組織から出されている課題と法人側から出されている課題等を更に明確にし。管理運営体制の適切性及び次年度への課題を明確にして、評価をお願いします。</p>

XIII. 財務

担 当：財務室

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 学校法人会計基準の改正に伴う円滑な移行 2. 科学研究費補助金等の公的研究費の不正使用の防止及び研究活動における不正行為の対応に関する規程の整備</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 学校法人会計基準の改正に伴う円滑な移行</p> <p>学校法人会計基準が学校法人会計基準の一部を改正する省令（平成 25 年 4 月 22 日 文部科学省令第 15 号）が平成 27 年 4 月 1 日に施行され、平成 27 年度以降の計算書類に適用されることになり、円滑に移行するための準備を 2014 年度から行い、煩雑ではあるが新旧両会計基準を精査しながら、円滑な移行が図れた。</p> <p>新会計基準に則り、財務状況の情報公開がより分かりやすくなるものとなるよう決算及び新年度予算に反映していきたい。</p> <p>2. 科学研究費補助金等の公的研究費の不正使用の防止及び研究活動における不正行為の対応に関する規程の整備</p> <p>本学の研究活動に関して文部科学省通知に則り、科学研究費補助金等の公的研究費の不正使用の防止及び研究活動における不正行為の対応に関する規程の整備を行い、教職員に対する周知を行い、内部監査のあり方について検討してきたところである。</p>
<p>次年度への課題</p>	<p>1. 中・長期的な財政計画の立案</p>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>学校法人会計基準の改正に伴う円滑な移行が図れたことについて評価します。引き続き、財務状況の情報公開がより分かりやすくなるものとなるよう決算及び新年度予算に反映されることを期待します。</p> <p>科学研究費補助金等の公的研究費の不正使用の防止及び研究活動における不正行為の対応に関する規程の整備を徹底させるようお願いします。</p>

XIV. 事務組織

担 当：事務局長

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学基準協会の点検・評価項目「事務機能の改善・業務内容の多様化への対応策」についての取り組みを行う。 2. 大学基準協会の点検・評価項目「関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備と適切な運用」についての取り組みを行う。
<p>活動内容の評価</p>	<p>前年度において、大学基準協会の点検・評価項目を参照し評価を行なうことの見解があり、本年度は次の2点について取り組みを行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「事務機能の改善・業務内容の多様化への対応策」についての取り組み <p>事務量が増加し、内容が高度化していることから学園全体のIT化を進める必要があり、2015年度においてGAKUENシステムの契約更新期にあることから、GAKUENシステム会計システムの更新及び導入に関する検討を学務課を中心に全課がこれに加わって、検討を行い、2016年度に稼働を目指し、作業が進められている。</p> <p>この導入により事務処理の単純なルーチンワークからの解消と、事務の高度化が図られるものと見込んでいる。</p> <p>この完全な稼働については、少なくとも数年を要するものとみられ、その導入に引き続き、運用面での慎重な対応が必要となっている。</p> 2 「関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備と適切な運用」についての取り組み <p>本学における規則、規程、申し合わせ事項など規程類は100件以上あり、今回、「学校教育法及び国立大学法人法の一部を改正する法律」及び「学校教育法施行規則及び国立大学方針法施行規則の一部を改正する省令」が成立されたことにより、文部科学省からの通知において内部規則等の総点検・見直しを実施したところであり、理事会、教育研究評議会、教授会、研究科委員会、各委員会等において改正作業が精力的に進められた。</p>
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 点検・評価項目「関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備と適切な運用」についての取り組み「事務機能の改善・業務内容の多様化への対応策」に係るシステムの円滑な運用と、新たなシステムの導入 2. 点検・評価項目「関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備と適切な運用」についての取り組みに係る規程類の引き続き改正
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>次年度より稼働されるシステムが事務機能の改善を即し、より充実したものとなるように、更なる検討と取り組みを期待します。</p> <p>「関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備と適切な運用」についての取り組みに係る規程類の改定が、学生及び教職員にとってより良いものとなるように期待します。</p>

XV. 自己点検・評価活動

担当： 自己点検評価委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年報の発行 2. 活動報告会による課題及び次年度への改善点の明確化 3. 大学基準協会への改善勧告。努力課題に対する回答 4. 日本助産評価機構より付された課題の検討 5. 研究業績様式の見直し
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護栄養学部・看護栄養学研究科及び助産研究科の年報は前年度より早く、予定通り6月末に発刊した。 2. 活動報告会は2016年3月18日に開催。学内の課題の共有、連携を目指すための報告会は今年度で4年を経過し定例化されつつある。しかし、課題の共有を図り全学的PDCAサイクルによる自己点検評価活動は、下記6に示した状況で未だ十分に活動に至っていないのが現状である。 3. 大学基準協会への改善報告書は7月末に提出し、受理された。 4. 助産研究科の認証評価の課題については、助産研究科より回答された。 5. 研究業績様式の見直しについて、前年度予算計上が見送られていた教員業績システムの提案が今年度導入されることとなった。システム導入に伴い、今後研究業績の公開がよりスムーズになることが期待される。 6. 自己点検評価活動としてのシステムづくりと今後について、2015年3月に教育研究評議会に提案した課題について検討した。内容は自己点検評価を推進する部署・責任の所在が明確になっていないこと、全学的なPDCAサイクルによる改善・改革が十分に進んでいないこと、点検評価内容を十分に活用し改善するシステムが構築されていないことである。学長・教育研究評議会からは回答がない状況であり、今後も引き続き教育研究評議会での検討を期待し、全学的評価活動の展開を目指す。自己点検評価委員会の位置づけも明確にされることを期待する。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内部質保証の充実を目指した大学の自己点検活動の展開 2. 自己点検評価の構築 3. 年報の作成および報告会の実施（PDCAサイクルとなるものを目指す）
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>自己点検・評価結果を教育研究評議会へ報告して課題の共有を目指すと共に、さらに課題解決のためのPDCAサイクルにおける「Act」に係る本学のシステムを、教育研究評議会を中心に構築していきたいと考えています。（学長）</p>

自己点検・評価資料

目 次

I. 学事歴	25
II. 2015年度開講科目一覧	27
III. 学生数・奨学金の採用状況	29
IV. 国家試験合格率	30
V. 就職・進学状況	31
VI. 2016年度入学試験結果	33
VII. 教員組織	34
VIII. 事務組織	35
IX. 研究等の活動	36
X. 組織図	39
XI. 会議の開催状況	40
XII. 委員会構成一覧	48
XIII. 委員会の活動報告	50
XIV. 図書館の利用状況	61
XV. 情報処理室の利用状況	62
XVI. 施設・設備の状況	63
XVII. 財務状況	65

I. 2015年度 学事暦 (助産研究科)

【前期】

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定等
4月				1	2	3	4	2日(木) : 13:00 入学式・新入生オリエンテーション 3日(金) 新入生オリエンテーション・2年次ガイダンス・定期健康診断 6日(月) 新入生修養会 23日(木)午前 始業式、イースターの集い
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30			
5月						1	2	11日(月) 基礎2年 : 「マタニティサイクル独立助産実習」開始(前半グループ) 14日(木)午後 合唱コンクール
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							
6月		1	2	3	4	5	6	15日(月) 基礎1年 : 「マタニティサイクル助産学基礎実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」開始 15日(月) 教育2年 : 「臨床助産教育実習」開始 19日(金) 基礎2年 : 「マタニティサイクル独立助産実習」終了(前半グループ) 29日(月) 基礎2年 : 「マタニティサイクル独立助産実習」開始(後半グループ)
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30					
7月				1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
8月							1	7日(金) 基礎2年 : 「マタニティサイクル独立助産実習」終了(後半グループ) 14日(金) 基礎1年 : 「マタニティサイクル助産学基礎実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」終了 14日(金) 教育2年 : 「臨床助産教育実習」終了 24日(月)～28日(金) 基礎1・2年、教育1年 : 補講期間・前期定期試験 31日(月) 夏期休暇開始
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
	30	31						
9月			1	2	3	4	5	25日(金) 夏期休暇終了 28日(月) 教育2年 : 卒業感謝の式、学位記授与式 28日(月) 基礎2年 : 「マタニティサイクル助産学統合実習Ⅱ」開始(第1グループ)
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30				

学年	専攻	学内授業期間	臨地実習期間	
1年次	基礎	4月 3日(金) ~ 6月12日(金)	基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	6月15日(月) ~ 8月14日(金)
	教育	8月17日(月) ~ 8月28日(金)		
2年次	基礎	4月 2日(木) ~ 5月 8日(金)	独立助産実習(前半) 独立助産実習(後半)	5月11日(月) ~ 6月19日(金) 6月29日(月) ~ 8月 7日(金) (期間内1人当り : 原則6週間)
	教育	4月 2日(木) ~ 8月28日(金)	臨床助産教育実習	6月15日(月) ~ 8月14日(金) (期間内1人当り : 1週間)

【後期】

		日	月	火	水	木	金	土	行事予定等	
月						1	2	3		
		4	5	6	7	8	9	10	9日(金)	基礎2年：「マタニティサウル助産学総合実習Ⅱ」終了(第1グループ)
		11	12	13	14	15	16	17	13日(火)	基礎2年：「マタニティサウル助産学総合実習Ⅱ」開始(第2グループ)
		18	19	20	21	22	23	24	23日(金)	基礎2年：「マタニティサウル助産学総合実習Ⅱ」終了(第2グループ)
		25	26	27	28	29	30	31	26日(月)	基礎2年：「マタニティサウル助産学総合実習Ⅱ」開始(第3グループ)
月		1	2	3	4	5	6	7		
		8	9	10	11	12	13	14	6日(金)	基礎2年：「マタニティサウル助産学総合実習Ⅱ」終了(第3グループ)
		15	16	17	18	19	20	21	2日(月)~6日(金)	基礎1年：演習、実習オリエンテーション
		22	23	24	25	26	27	28	9日(月)	基礎1年：「マタニティサウル助産学総合実習Ⅰ」開始
		29	30							
月				1	2	3	4	5		
		6	7	8	9	10	11	12	8日(火)	創立記念日
		13	14	15	16	17	18	19	7日(月)~11日(金)	教育1年：演習、実習オリエンテーション
		20	21	22	23	24	25	26	14日(月)	教育1年：「独立助産実習」開始
		27	28	29	30	31			16日(水)午前	学生クリスマスの集い
1月						1	2			
		3	4	5	6	7	8	9		
		10	11	12	13	14	15	16	11日(火)	基礎1・2年：冬期休暇終了
		17	18	19	20	21	22	23	22日(金)	教育1年：「独立助産実習」終了
		24	25	26	27	28	29	30		
2月							1	2		
		3	4	5	6	7	8	9		
		10	11	12	13	14	15	16	1日(月)	教育1年：冬期休暇開始
		17	18	19	20	21	22	23	12日(金)	教育1年：冬期休暇終了
		24	25	26	27	28	29	30	12日(金)	基礎1年：「マタニティサウル助産学総合実習Ⅰ」終了
3月				1	2	3	4	5		
		6	7	8	9	10	11	12	4日(金)	修了前修養会
		13	14	15	16	17	18	19	14日(月)	修了・卒業感謝の会
		20	21	22	23	24	25	26	15日(火)10:00~	修了証書・学位記授与式
		27	28	29	30	31				

学年	専攻	校内授業期間	臨地実習期間	
1年次	基礎	9月28日(月)~11月6日(金) 2月15日(月)~3月4日(金)	統合実習Ⅰ	11月9日(月)~12月24日(木) 1月12日(火)~2月12日(金)
	教育	9月28日(月)~12月11日(金) 2月15日(月)~3月4日(金)	独立助産実習	12月14日(月)~1月22日(金) (期間内1人当り：原則6週間)
2年次	基礎	9月28日(月)~12月24日(木) 1月12日(火)~2月19日(金)	統合実習Ⅱ	9月28日(月)~11月6日(金) (期間内1人当り：2週間)

II. 2015年度開講科目一覧

【助産基礎分野】

区分	授業科目	学年	学期	単位数		授業区分			履修方法及び修了要件
				必修	選択	講義	演習	実習	
基礎科目	概念形成	助産学概論	1	前	1		1		
		助産哲学・倫理Ⅰ	1	後	1		1		
		助産哲学・倫理Ⅱ	2	後		1	1		
		出産の文化	1	前	1		1		
	専門基礎	女性のフィジカルイグザミネーション	1	前	1			1	
		助産薬理学Ⅰ	1	前	1		1		
		助産薬理学Ⅱ	2	前	1		1		
		妊産褥婦乳幼児の栄養	1	前	1		1		
		助産女性学	1	前	1		1		
		助産カウンセリング	1	後	1			1	
		健康教育論Ⅰ	1	前	1		1		
		健康教育論Ⅱ	2	前	1			1	
	助産機能	助産管理論Ⅰ	1	後	1		1		
		助産管理論Ⅱ	2	前	1		1		
		助産師教育論	2	前	1		1		
		助産師教育方法論	2	後		1	1		
		母子保健行政・財政論	1	後	1		1		
		母子保健活動論（疫学・統計を含む）	2	前	1		1		
	実践専門科目	マタニティサイクル助産ケア	マタニティサイクル助産ケアⅠ	1	通年	2		1	1
マタニティサイクル助産ケアⅡ			1	通年	2		1	1	
マタニティサイクル助産ケアⅢ			1	通年	2		1	1	
ハイリスク助産学Ⅰ			1	後	1		1		
ハイリスク助産学Ⅱ			1	後	1		1		
ハイリスク助産演習			2	前	1			1	
独立助産実践概論			2	前	1		1		
マタニティサイクル助産ケア実践		独立助産演習	2	前	1			1	
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅰ	1	前	2				2
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅱ	1	前	2				2
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅲ	1	前	2				2
		マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅰ	1	後	6				6
		マタニティサイクル独立助産実習	2	前	6				6
		マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ	2	後	2				2
発展・展開科目	発展・展開	子育て支援論Ⅰ	1	後	1		1		
		子育て支援論Ⅱ	2	前後	①	1		1	
		子育て支援論演習	2	後		1		1	
		性教育Ⅰ	2	前	1		1		
		性教育Ⅱ	2	前後	②	1		1	
		性教育実習	2	後		1			1
		ウィメンズヘルスⅠ	1	後	1		1		
		ウィメンズヘルスⅡ	2	前後	③	1		1	
		ウィメンズヘルス演習	2	後		1		1	
		国際助産学Ⅰ	2	前	1		1		
		国際助産学Ⅱ	2	前後	④	1		1	
国際助産学実習	2	後		2			2		
特別統合研究科目	特別統合課題研究	2	通年	1			1		
合計					53	11	26	15	23

発展・展開科目以外の選択科目から1単位以上修得すること。56単位を修得すること。なお、選択科目は、①から④のいずれかの領域の単位を必ず修得し、かつ①、②、③の領域を選択した場合は、

【助産教育分野】 2014年度入学生

区分	授業科目	学年	学期	単位数		授業区分			履修方法及び 修了要件	
				必修	選択	講義	演習	実習		
基礎 科目	専門基礎	助産薬理学Ⅱ	2	前	1		1			修了要件は 含むは 56 選択 科目 1 単位 を 修得 すること。
		健康教育論Ⅱ	2	前	1			1		
	助産機能	母子保健活動論（疫学・統計を含む）	2	前		1	1			
展 発 目 開 展 科 ・	助産・看護教育	助産教育実習	2	前	2			1	1	
		臨床助産教育実習	2	前	2			1	1	
	特別統合研究科目	助産教育課題研究	2	前	2			2		
合 計					8	1	2	5	2	

【助産教育分野】 2015年度入学生

区分	授業科目	学年	学期	単位数		授業区分			履修方法及び 修了要件	
				必修	選択	講義	演習	実習		
助 産 専 門 科 目	概念形成	助産学概論	1	前	1		1			修了要件は 選択科目 8 単位 以上 を含む 45 単位 を 修得 すること。
		助産哲学・倫理Ⅰ	1	後	1		1			
		助産哲学・倫理Ⅱ	1	後	1		1			
		出産の文化	1	前		1	1			
		助産女性学	1	前		1	1			
	助産教育技術	助産カウンセリング	1	後	1			1		
		健康教育論Ⅰ	1	前	1		1			
		女性のフィジカルイグザミネーション	1	前		1		1		
	助産ケア 特論・実践	独立助産実践特論	1	前	1		1			
		独立助産演習	1	前	1			1		
		独立助産実習	1	後	6				6	
		ハイリスク助産学Ⅰ	1	後		1	1			
		ハイリスク助産学Ⅱ	1	後		1	1			
	助産機能	助産管理論Ⅰ	1	後		1	1			
		助産管理論Ⅱ	1	前	1		1			
		母子保健行政・財政論	1	後		1	1			
	発展・展開	子育て支援論	1	後		1	1			
		性教育	1	前		1	1			
		ウイメンズヘルス	1	後		1	1			
		国際助産学	1	前		1	1			
教育科目	助産・看護教育	教育概論	1	前	2		2			
		教育計画(カリキュラム)の原理と展開	1	通年	2		2			
		教育計画(カリキュラム)の原理と展開演習	1	後	1			1		
		教授学習法の理論と展開	1	通年	2		2			
		教授学習法の理論と展開演習	1	後	1			1		
		教育評価	1	後	2		2			
		教育評価演習	1	後	1			1		
		教育機関の運営と評価	1	後	2		2			
	特別統合研究	助産研究法Ⅰ	1	前	1		1			
		助産研究法Ⅱ	1	後	1			1		
合 計					29	11	27	7	6	

Ⅲ. 学生数・奨学金の採用状況

在籍者数

(2015年5月1日現在)

所属	学科・専攻	コース名等	収容定員	1年	2年	3年	4年	計	収容定員充足率
看護栄養学部	看護学科		348	93 (9)	93 (2)	99 (3)	97 (8)	382 (22)	109.8%
	栄養学科		350	86 (2)	87 (2)	90 (0)	99 (0)	362 (4)	103.4%
		(うち編入生)	10	—	—	4 (0)	3 (0)	7 (0)	70.0%
	小 計			698	179 (11)	180 (4)	189 (3)	196 (8)	744 (26)
助産大学院 助産研究科	助産専攻	助産基礎分野	60	21 —	21 —	— —	— —	42 —	70.0%
		助産教育分野	20	1 —	4 —	— —	— —	5 —	25.0%
	小 計			80	22 —	25 —	— —	47 —	58.8%
看護大学院 看護栄養学 研究科	看護学専攻	ホスピス・緩和ケア看護学コース	16	2 (0)	2 (0)	— —	— —	4 (0)	62.5%
		公衆衛生看護学コース		0 (0)	4 (1)	— —	— —	4 (1)	
		成人看護学コース		0 (0)	1 (1)	— —	— —	1 (0)	
		精神看護学コース		0 (0)	0 (0)	— —	— —	0 (0)	
	栄養管理学専攻	博士前期課程	6	3 (0)	3 (0)	— —	— —	6 (0)	100.0%
		博士後期課程	6	1 (0)	1 (0)	1 (0)	— —	3 (0)	50.0%
	小 計			28	6 (0)	11 (1)	1 (0)	— —	18 (1)
合 計			806	207 (11)	216 (5)	190 (3)	196 (8)	809 (27)	100.4%

社会人学生数

(2015年5月1日現在)

所属	学 科	1年	2年	3年	4年	計
看護栄養学部	看護学科	3 (0)	4 (0)	8 (2)	6 (1)	21 (3)
	栄養学科	2 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)
	小 計	5 (1)	5 (0)	8 (2)	6 (1)	24 (4)

奨学金の種類と採用数（2015年8月現在）

対象	奨学金の種類		奨学金の金額		貸与・給付の別	採用数
全学生	天使大学貸与奨学金		月 額	30,000円	無利子貸与	43人
	日本学生支援機構奨学金	第一種	月 額	30,000円 または、自宅通学 54,000円 自宅外通学 64,000円	無利子貸与	172人
		第二種 (月額選択)	月 額	30,000円、50,000円 80,000円、100,000円 120,000円	有利子貸与 利率変動3%以内	240人
2 年 次 生 以 上	天使大学シスター川原ユキエ 記念奨学金		年 額	看護学科 600,000円 栄養学科 500,000円	給付、返還不要	10人
	天使大学給付奨学金		年 額	200,000円	給付、返還不要	20人
	天使大学同窓会奨学金		年 額	300,000円	無利子貸与	1人
1～3年 次生	学業成績優秀者奨励金		年 額	50,000円	給付	6人
看学生	北海道看護職員養成修学資金		月 額	32,000円	道内特定施設に5年以上 勤務の場合返還免除	19人
全 学 生	その他の奨学金					7人
合 計						518人

IV. 国家試験合格率

国家試験合格率

学 部・学 科	国家試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B)	合格率 (%) B/A*100	全国合格率 (%)
天使大学大学院 助産研究科	助産師国家試験	20 人	20 人	100.00%	99.90%
看護栄養学部 看護学科	看護師国家試験	95 人	93 人	97.90%	94.90%
看護栄養学部 看護学科	保健師国家試験	6 人	5 人	83.30%	92.60%
看護栄養学部 栄養学科	管理栄養士国家試験	97 人	87 人	89.69%	85.11%

V. 就職・進学状況

〔就職希望者〕

分野		助産基礎分野	助産教育分野	計	卒業者に対する割合
就職希望の有無	希望有りの者	20	2	22	95.7%
	希望無しの者	0	1	1	4.3%
計(修了者数)		20	3	23	100.0%

〔就職決定者〕

分野	助産基礎分野	助産教育分野	計	就職者に対する割合
決定数/決定率	20	2	22	100.0%

〔地域別・就職別決定者〕

分野		助産基礎分野	助産教育分野	計	就職者に対する割合
地域別	道外	9	1	10	45.5%
	道内	11	1	12	54.5%
	市内(再掲)	(10)	(0)	(10)	(45.5%)
職種別	助産師	20	2	22	100.0%
	教員	0	0	0	0.0%
	上記以外	0	0	0	0.0%

2015年度求人件数・人数（2016年3月11日現在）

〔看護職〕

職 種	件 数					人 数				
	(市内)	道内	道外	全国	件数合計	(市内)	道内	道外	全国	人数合計
看護師	51	107	274	0	432	1,368	1,944	18,194	0	21,506
保健師	7	69	25	0	101	34	190	104	0	328
助産師	16	30	141	0	187	78	120	1,009	0	1,207
計	74	206	440	0	720	1,480	2,254	19,307	0	23,041

〔栄養士職〕

職 種	件 数					人 数				
	(市内)	道内	道外	全国	件数合計	(市内)	道内	道外	全国	人数合計
栄養士	49	83	22	0	154	49	83	22	0	154
管理栄養士	54	141	25	0	220	200	338	104	0	642
栄養教諭	1	4	2	0	7	10	15	15	0	40
計	104	228	49	0	381	259	436	141	0	836

〔一般職・その他〕

職 種	件 数					人 数				
	(市内)	道内	道外	全国	件数合計	(市内)	道内	道外	全国	人数合計
一般	33	69	106	0	208	1,305	1,794	6,822	0	9,921

合計	211	503	595	0	1,309	3,044	4,484	26,270	0	33,798
----	-----	-----	-----	---	-------	-------	-------	--------	---	--------

注1 (市内)は道内の内数

注2 道内+道外+全国=合計

注3 全国は勤務先が道内・道外に限定されない場合

注4 若干名は3とカウントする

注5 保健師・助産師求人数は人数を明記してある場合以外は3とカウントする

VI. 2016年度入試結果

2016年度天使大学・大学院入学試験結果

看護栄養学部

* () は、昨年度の数字です

◆看護学科

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
指定校推薦	40	5	(7)	5	(7)	5	(7)	5	(7)	1.0
公募制推薦		40	(52)	40	(52)	36	(35)	36	(35)	1.1
社会人	37	13	(9)	12	(9)	2	(1)	2	(1)	6.0
一般		316	(281)	314	(277)	71	(72)	40	(39)	4.4
センター利用	10	143	(154)	143	(154)	28	(28)	10	(11)	5.1
総計	87	517	(503)	514	(499)	142	(143)	93	(93)	3.6

◆栄養学科

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
指定校推薦	42	4	(4)	4	(4)	4	(4)	4	(4)	1.0
公募制推薦		49	(60)	49	(60)	38	(38)	38	(38)	1.3
社会人	33	0	(2)	0	(2)	0	(2)	0	(2)	—
一般		75	(123)	72	(121)	43	(42)	39	(30)	1.7
センター利用	10	59	(110)	59	(110)	12	(18)	9	(11)	4.9
総計	85	187	(299)	184	(297)	97	(104)	90	(85)	1.9

◆栄養学科 (3年次編入)

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
	5	8	(11)	8	(11)	5	(5)	4	(4)	1.6

大学院 看護栄養学研究科

◆看護学専攻 (保健師コースを除く)

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
前期	8	0	(2)	0	(1)	0	(1)	0	(1)	—
後期		2	(1)	2	(1)	0	(1)	0	(1)	—
総計	8	2	(3)	2	(2)	0	(2)	0	(2)	—

◆看護学専攻 (保健師コース)

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
推薦	6	0	—	0	—	0	—	0	—	—
一般 前期		5	—	5	—	5	—	5	—	1.0
一般 後期		1	—	1	—	0	—	0	—	—
総計	6	6	—	6	—	5	—	5	—	1.2

◆栄養管理学専攻 博士前期課程

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
前期	3	0	(1)	0	(1)	0	(1)	0	(1)	—
後期		0	(2)	0	(2)	0	(2)	0	(2)	—
総計	3	0	(3)	0	(3)	0	(3)	0	(3)	—

◆栄養管理学専攻 博士後期課程

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
前期	2	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	—
後期		0	(2)	0	(2)	0	(1)	0	(1)	—
総計	2	0	(2)	0	(2)	0	(1)	0	(1)	—

大学院 助産研究科

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)	
基礎分野	推薦	10	5	(11)	5	(11)	5	(11)	5	(11)	1.0
	前期一般	15	7	(4)	4	(4)	3	(3)	3	(2)	1.3
	前期社会人		2	(4)	2	(4)	2	(3)	2	(3)	1.0
	後期一般		1	(4)	1	(4)	1	(2)	1	(2)	1.0
	後期社会人	5	1	(3)	1	(3)	1	(3)	1	(3)	1.0
分教 野育	前期	10	1	(1)	1	(1)	0	(1)	0	(1)	—
	後期		2	(0)	2	(0)	2	(0)	2	(0)	1.0
総計	40	19	(27)	16	(27)	14	(23)	14	(22)	1.1	

VII. 教員組織

教員組織一覽

(2015年5月1日現在)

所 属		教授	准教授	講師	助教	助手	計
大学院	助産研究科	8人	1人	1人	2人	0人	12人
	兼任教員(非常勤講師)	—	—	—	—	—	31人
看護栄養学部	看護学科	6人	5人	8人	6人	2人	27人
	栄養学科	9人	5人	6人	2人	4人	26人
	教養教育科	4人	3人	0人	0人	0人	7人
	計	19人	13人	14人	8人	6人	60人
	兼任教員(非常勤講師)	—	—	—	—	—	84人
合計		27人	14人	15人	10人	6人	187人

専任教員年齢構成

(2015年5月1日現在)

所属	職位	71歳以上	66歳～70歳	61歳～65歳	56歳～60歳	51歳～55歳	46歳～50歳	41歳～45歳	36歳～40歳	31歳～35歳	26歳～30歳	計
助産研究科	教授	1	0	3	4	0	0	0	0	0	0	8
		12.5%	0.0%	37.5%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	講師	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
0.0%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	
計	1	0	3	4	2	1	1	0	0	0	12	
	8.3%	0.0%	25.0%	33.3%	16.7%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	
小計	1	0	3	4	2	1	1	0	0	0	12	
	8.3%	0.0%	25.0%	33.3%	16.7%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	
看護栄養学部・看護栄養学研究科	教授	0	5	6	4	2	2	0	0	0	0	19
		0.0%	26.3%	31.6%	21.1%	10.5%	10.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	3	1	3	4	2	0	0	0	13
		0.0%	0.0%	23.1%	7.7%	23.1%	30.8%	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	講師	0	0	0	1	3	7	0	3	0	0	14
		0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	21.4%	50.0%	0.0%	21.4%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	1	0	2	4	1	0	8
0.0%		0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	25.0%	50.0%	12.5%	0.0%	100%	
計	0	5	9	6	9	13	4	7	1	0	54	
	0.0%	9.3%	16.7%	11.1%	16.7%	24.1%	7.4%	13.0%	1.9%	0.0%	100%	
助手	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	6	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	33.3%	50.0%	100%	
小計	0	5	9	6	9	13	4	8	3	3	60	
	0.0%	8.3%	15.0%	10.0%	15.0%	21.7%	6.7%	13.3%	5.0%	5.0%	100%	
合計	1	5	12	10	11	14	5	8	3	3	72	
	1.4%	6.9%	16.7%	13.9%	15.3%	19.4%	6.9%	11.1%	4.2%	4.2%	100%	

※定年：65歳

教員の任免・昇任者一覧

(2015年3月31日現在)

学科・科	採用者					昇任者		退職者				
	教授	准教授	講師	助教	助手	准教授から教授	助教から講師	教授	准教授	講師	助教	助手
助産研究科	0人	1人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
看護学科	0人	0人	2人	1人	4人	0人	1人	2人	1人	0人	0人	2人
栄養学科	1人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	2人	0人	0人	0人	1人
教養教育科	1人	0人	0人	0人	0人	2人	0人	1人	0人	0人	0人	0人
計	2人	1人	2人	1人	4人	3人	2人	5人	1人	0人	0人	3人

VIII. 事務組織

(2015年5月1日現在)

区分	部門	専任職員		常勤嘱託職員	臨時職員	派遣職員	その他	計
			うち管理職					
法人業務系	事務局長	0	0	1	0	0	0	1
	参与	0	0	1	0	0	0	1
		0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	2	0	0	0	2
大学業務系	総務課	4	2	3	4	0	0	11
	学務課	5	1	4	4	0	0	13
	図書情報課	4	1	3	0	0	0	7
	財務室	3	1	3	4	0	0	10
	入試・広報室	3	1	1	0	0	0	4
	計	19	6	14	12	0	0	45
合計		19	6	16	12	0	0	47

IX. 研究等の活動

独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業（代表者）の採択状況

	代表者名	研究課題名	種別
1	看護学科・教授 荃津 智子	小中学校教員の子どものグリーフに関する認識とグリーフケア	基盤C 継続採択
2	栄養学科・教授 佐藤 香苗	地域で暮らす認知症高齢者のための新規栄養ケアモデルの構築と応用可能性	基盤C 継続採択
3	看護学科・教授 吉田 礼維子	介護予防システムを推進する保健師の活動強化プログラムの検討	基盤C 新規採択
4	栄養学科・助教 松下 真美	食事タンパク質・アミノ酸の抗肥満効果に対する褐色脂肪熱産生の寄与	若手研究B 新規採択

特別研究費の助成状況

	氏名	研究課題名
1	看護学科・教授 吉田 礼維子	本学大学院で養成する高度専門職業人に共通するコンピテンシーの明確化～両専攻共通科目の提言に向けて～
2	栄養学科・教授 大久保 岩男	北海道産マタタビおよびサルナシの果実に含まれるシステインプロテアーゼの構造および機能解析に関する研究
3	栄養学科・准教授 鈴木 純子	生活習慣病患者の概日リズム改善が安静時代謝量に及ぼす影響
4	看護学科・教授 荒井 春生	精神科病院における保護室の環境条件に関する検討
5	栄養学科・講師 岡部 哲子	病院栄養士の給食経営管理業務にかかわる就業実態 —管理栄養士養成施設の卒業生を対象とする実態調査—
6	栄養学科・教授 武蔵 学	スポーツ貧血の研究 —マラソン後のIL-6とヘプシジンの増加
7	看護学科・助教 小澤 涼子	積雪寒冷地における壮年期第一次産業従事者の健康観
8	看護学科・助教 田中 さおり	S G A性低身長症児とその家族に関する看護師の認識の実態
9	看護学科・助教 富川 将史	I C T導入による課題達成型ヘルスアセスメントの教授方略の開発 ～アクティブラーナー育成に向けた取り組み～
10	栄養学科・准教授 清水 真理	特定(多数)給食施設における栄養管理に関する実態と指導および支援方法の検討

受託研究等

	代表者名	研究課題名	種別
1	栄養学科・助教 松下 真美	ヒト褐色脂肪に対するカプシエイト類の効果に関する研究	奨学寄付
2	栄養学科・教授 久保 ちづる	道産の機能性リッチな食材を活用し、生活習慣病を改善する料理研究の促進のため	奨学寄付
3	栄養学科・教授 大久保 岩男	日本食によるストレス・脳機能改善効果の解明	共同研究
4	栄養学科・教授 大久保岩男	世界の健康に貢献する日本食の科学的・多面的検証	共同研究
5	栄養学科・教授 大久保 岩男	アロニア果汁による血糖値の上昇抑制効果に関する確認試験	受託研究
6	栄養学科・教授 下田 妙子	ビフィズス菌摂取による血中ヘモグロビン改善作用に要する調査	受託研究
7	栄養学科・助教 松下 真美	褐色脂肪組織活性と食後消化管ホルモン動態との関連性評価検討	受託研究

FD・SDの実施状況

分類	日時	テーマ	内容
(FD 看護栄養学 部) 研修会	2016年3月1日(火)	パフォーマンス評価入門	講師：大阪大学教育学習支援センター 副センター長 全学教育推進機構 佐藤 浩章氏
(FD 看護栄養学 研究科) 研修会	2015年12月19日(土)	大学院修士課程における栄養ケア・マネジメントのインターン研修	講師：神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部栄養学科 教授 杉山 みち子氏
(FD 産D 研究 科会)	2015年6月17日(水)	臨床研究の考え方、進め方ー臨床研究so学者のための基本ー	講師：北海道大学病院教授 佐藤 典宏氏
	2015年10月21日(水)	健康日本21(第二次)における栄養対策ー国・自治体の動向と大学の役割	講師：新潟県立大学人間生活学部 教授 村山 伸子氏
SD 研修会	2015年8月28日(金)	「高大連携改革実行プランー大学への入り口の問題ー」 「内部質保証、地域包括支援システムー出口の問題ー」	講師：天使大学 学長 武蔵 学氏

公開講座の実施状況

日時	テーマ	内容
2015年8月20日（木） ） 2015年9月17日（木）	いのちみつめて	2015年度第16回天使大学看護栄養学部公開講座（北海道薬科大学連携公開講座）が、「いのちみつめて」を全体テーマとして開催されました。参加登録者は定員80名に対して92名、受講者の延べ人数は331名でした。

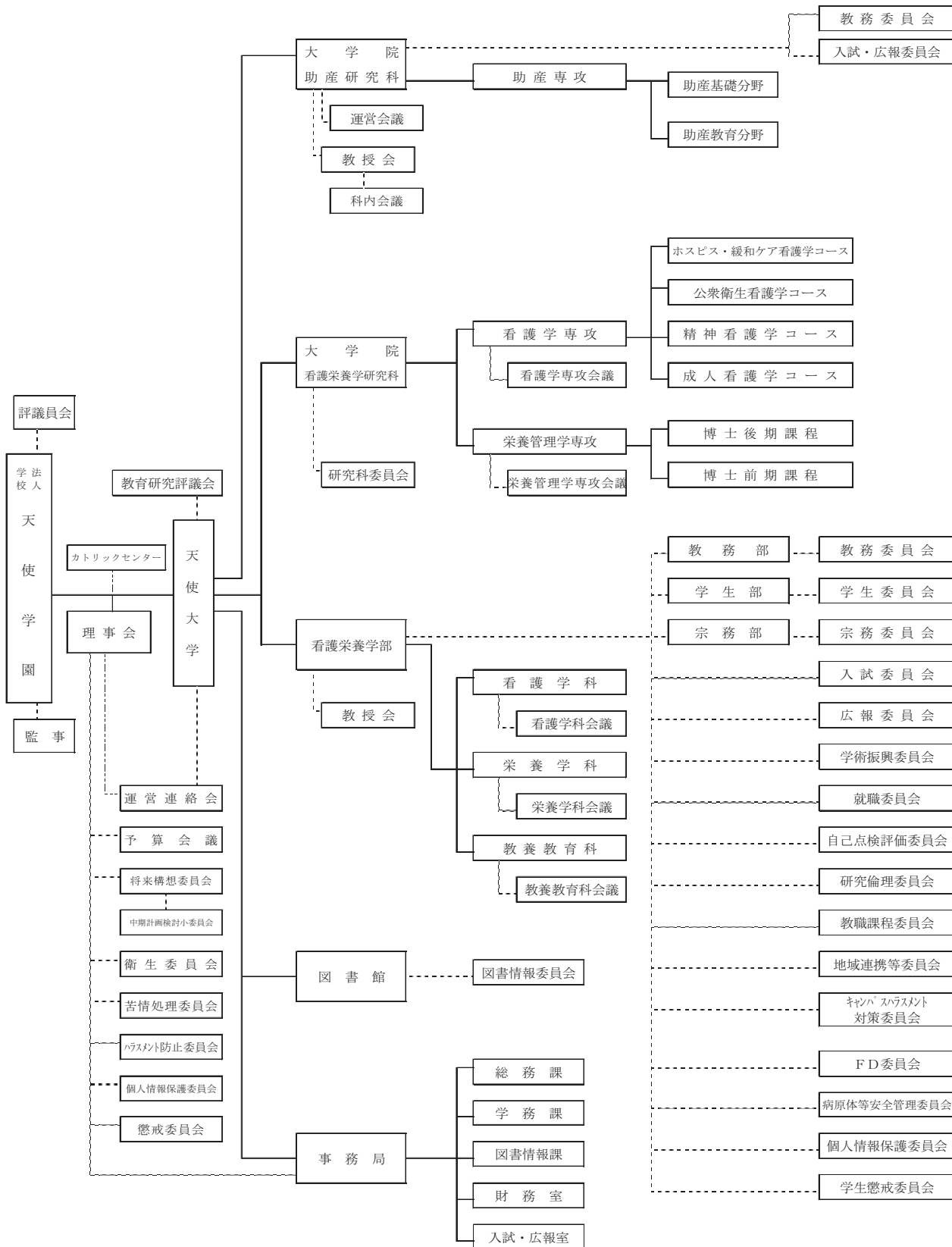
その他の活動

分類	活動内容
天使大学大学院看護栄養学研究科看護学専攻ホスピス緩和ケアセミナー	2015年6月20日（土）に本学6101講義室にて、本学大学院看護栄養学研究科のデボラ・ウィット・シャーマン教授を講師に「終末期ケアにおける患者・家族の意思決定支援～アドバンス・ケア・プランニング～」をテーマに講演しました。参加者は71名でした。
天使大学ヘルスケア実践開発プロジェクト	①講演会 2015年10月5日（月）に本学6603講義室にて、大分県立看護科学大学理事長の村嶋幸代氏を招聘し、「大分県立看護科学大学の地域貢献活動－学部学生の家庭訪問活動などについて－」をテーマに講演していただきました。 ②天使大学子育てサロンの実施 2016年3月11日（金）に本学8号館ラウンジにて、子育て世代の母親を対象としたサロンを実施しました。 ③札幌市東区「すこやか倶楽部」への協力 2015年9月24日～29日に札幌市東区の鉄東地区・苗穂東地区で「栄養改善講座」を開催しました。また、2016年2月25日～26日に札幌市東区の鉄東地区で「この寒い時期の血圧の値は大丈夫？」をテーマに講座を開催しました。 ④認知症サポーター養成講座の開催 看護栄養学部の学生を対象に、札幌市の協力を得て養成講座を開催しました。
天使大学後援会助成による教育講演会	2015年11月21日（土）に本学6101講義室にて、KKR札幌医療センター整形外科医長の重信恵一氏を招聘し、「健やかに老いる～ロコモって何？」をテーマに講演していただきました。
札幌市東区保健福祉部・東区健康づくり連絡協議会との連携	2015年度は学部学生により「広報さっぽろ東区版及びホームページでのレシピの紹介」、「食育推進ネットワーク事業への参加」、「天使祭での健康相談・地域の健康づくり活動の紹介」、「たまねぎフェスタの運営協力」、「天使の昼食会」、「東区健康づくりフェスティバルの運営協力」など9事業に参加しました。
天使大学、札幌大谷大学、北海道体育大学校、札幌保健医療大学および札幌市東区による地域連携協定	札幌市東区に設置する3大学と1専門学校および札幌市東区による地域連携協定に基づき、「健康」をテーマに地域住民向けのスポーツまつりを2015年10月18日（日）につどむで開催し、「天使大の健康塾」というブースで、看護・栄養の学生達が参加者への食事のアドバイスや血圧測定を行いました。
生活協同組合コープさっぽろとの連携	食育の推進と食の信頼性の向上に貢献することを目的に、産学連携プロジェクトとして生活協同組合コープさっぽろと連携を行っています。連携内容は、料理レシピの共同開発、食品表示検定試験の協力、コープさっぽろ主催イベントへの参加など、栄養学科の多数の学生および教員が協力を行っています。
東日本大震災復興支援プロジェクトの活動	2011年6月に発足した東日本大震災支援プロジェクトは2012年度より名称に「復興」を加えて「東日本大震災復興支援プロジェクト」とし、次のとおりの支援事業の企画・運営を行いました。本プロジェクトは、本年度をもって5年を経過したことから終了することとし、引き続きボランティア活動に参加する学生に対しては天使大学同窓会が支援することになりました。 ①ボランティア活動支援 延べ27名の学生が長期休暇を利用して宮古市や釜石市等でボランティアに携わりました。 ②ボランティア活動報告会 2015年6月2日（火）に被災地にてボランティア活動に従事した学生の報告会を開催しました。 ③ 震災復興支援シンポジウム 2015年10月22日（木）に前半は「震災から5年目をむかえて～いま私たちにできること～」をテーマに宮城県土木部復興まちづくり推進室室長の茂泉博史氏と福島県保健福祉部健康推進課の小野喜代子氏を講師にお迎えして講演していただき、後半は講師2名に加え、仙台教区サポートセンターの濱山麻子氏と看護学科卒業生と栄養学科在学生の5名でディスカッションを行いました。 ④ ボランティア講習会 2016年1月15日（金）に心理カウンセラー2名を講師にお迎えし、「コミュニケーションスキルを学ぼう～心のいたみを抱えた方へのアプローチ法～」というテーマで講習会を開催しました。 ⑤ 天使祭への出店 天使祭の一般公開日である2015年6月13日（土）に本プロジェクトのブースを設けて被災地の産物を販売し、東北の郷土料理である「せんべい汁」の販売も行いました。また、本プロジェクトの活動内容をまとめたリーフレットを作成し、会場のテーブルに設置しました。

X. 組織図

学校法人天使学園 管理運営組織図

天使大学大学院 助産研究科
 天使大学大学院 看護栄養学研究科
 天使大学 看護栄養学部



XI. 会議の開催状況

看護栄養学学部教授会

回	開催年月日	審議・報告事項
臨時	2015年4月1日(水)	1. 審議事項 なし 2. 報告事項 1) 2015年度校務分掌・委員会構成について 2) 2015年度教授会構成員について 3) 2015年度教授会・研究委員会開催予定について 4) 2015年度一般入学試験、大学入試センター試験利用入学試験に係る追加合格について 5) 2014年度進級判定(判定保留者分)の結果について
1	2015年4月8日(水)	1. 審議事項 1) 2015年度非常勤講師の委嘱について 2) 看護学科教員の採用に係る募集大綱について 3) 栄養学科学生の進級判定の変更について 2. 報告事項 1) 2015年度学校医・精神神経科医について 2) 2015年度合唱コンクール実施について 3) 2015年度イースターの集い及び今後の宗教行事の予定について 4) 教授会運営のあり方について 5) 2015年度学園・大学事業計画及び当初予算について 6) 栄養学科学生の進級判定の変更について 7) 2014年度海外研修旅行の終了について 8) その他 ①学部教授会、研究科委員会の日程変更について ②学部教授会の開始時間について ③事務局職員の人事について
2	2015年5月12日(火)	1. 審議事項 1) 2015年度既修得単位の授与について 2) 2015年度非常勤講師の委嘱変更について 3) 2016年度看護栄養学部、栄養学科編入学試験、指定校推薦入学試験学生募集要項について 4) 「指定校推薦」枠の取消し基準に関する内規について 2. 報告事項 1) 英語および化学・生物にかかる試験の結果 2) 2015年度 天使祭について 3) 自衛消防訓練の実施について 4) 委員会報告 5) 大学院看護栄養学研究科看護学専攻及び看護学科教員の採用について 6) 看護学実習・成績評価に関する外部委員会の設置について
3	2015年6月9日(火)	1. 審議事項 1) 2015年度非常勤講師の委嘱変更について 2) 2014年度非常勤講師の委嘱・変更について 3) 卒業証明書(和文・英文)の文面変更及び学位名称の英語表記の変更について 2. 報告事項 1) 2014年度学校法人天使学園・天使大学事業報告および会計収支決算について 2) 2014年度学校法人天使学園・天使大学監事監査報告について 3) 学業成績優秀者奨励金該当者について 4) 学術振興委員会主催講演会に開催について 5) 2015年度葦の会役員、部長および部活動団体について 6) 委員会報告
4	2015年7月14日(火)	1. 審議事項 1) 天使大学学位規程の一部改正(案)について 2) 天使大学学位取得に関する細則の一部改正(案)について 3) 研究に関するアンケート調査について 4) 2015年度非常勤講師の委嘱について 2. 報告事項 1) 「第31回カトリック医療関連学生セミナーin岡山」の学生参加について 2) 他大学サークルによる飲酒強要、入会金未返金のトラブルについて 3) 定期試験解答用紙の取り扱い方法の変更について 4) 進級にかかわる対応について 5) 委員会報告 6) ヘルスケア実践開発プロジェクトについて 7) その他 カリキュラム検討委員会および看護栄養学研究科課程増設等検討委員会の開催状況について

回	開催年月日	審議・報告事項
5	2015年8月5日(火)	1. 審議事項 1) 休学願の許可について 2) 復学願の許可について 3) 2015年度単位の授与について 2. 報告事項 1) 2015年度学事歴の一部変更について 2) 人事方針について 3) 委員会報告 ・前期卒業生に係る学位授与式の中止について ・震災復興支援プロジェクトによる10月22日(木)シンポジウムの開催について ・ヘルスケア実践開発プロジェクトについて ・札幌米国総領事館主催の英語コンテスト グランプリの受賞について ・北海道薬科大学との夕張地域医療研修(9月2日～4日)の実施について 4) その他 ・天使大学研究活動における不正行為への対応に関する規程等の制定について ・特別研究費の決定について ・教授会報告について
6	2015年9月8日(火)	1. 審議事項 1) 休学願の許可について 2) 2015年度単位の授与について 3) 学則の一部改正について 4) 履修規程の一部改正について 5) 教員の採用に係る募集大綱について 2. 報告事項 1) 2015年度特別研究費の決定について 2) 2015年度避難訓練アンケートの調査結果について 3) 委員会報告 4) 2015年度後期宗務行事予定 5) 改正 非常勤講師・専任教員の委嘱に関する申し合わせ事項について 6) 再履修科目のある学生の履修について
7	2015年10月6日(火)	1. 審議事項 1) 休学願の許可について 2) 2015年度非常勤講師の委嘱および変更について 3) 教授会講成員以外への教授会報告について 2. 報告事項 1) 天使大学研究活動における不正行為への対応に関する+規程等の制定について 2) 「研究費に関する規程」及び「天使大学特別研究費審査委員会規程」の一部改正(案)について 3) 2015年度 Food and Life Step-up Ceremony実施要領について 4) 2015年度 体育祭の実施について 5) 教職員修養会の日程について 6) 専任教員の新規担当科目について 7) 学術振興委員会主催 後期講演会の開催について 8) 委員会報告
8	2015年11月10日(火)	1. 審議事項 1) 2015年度非常勤講師の委嘱について 2) 2016年度非常勤講師の委嘱について 3) 2016年度学事歴について 4) 2016年度以降の授業評価アンケートについて 5) 看護学科専任教員の採用に係る募集大綱について 6) 「研究費に関する規程」及び「天使大学特別研究費審査委員会規程」の一部改正(案)に係る意見集約結果について 2. 報告事項 1) 看護学科専任教員の退職願について 2) 2015年度戴帽式実施要領について 3) クリスマス関連の行事予定について 4) 2016年度会議日程[予定](第2次案)について 5) 2015年度海外研修旅行について 6) 教職員修養会の日程・内容等について 7) 委員会報告 8) 研究に関するアンケート調査の実施について
臨時	2015年11月18日(水)	1. 審議事項 1) 2016年度指定校推薦入学試験、公募制推薦入学試験、社会人入学試験、並びに栄養学科編入学試験の可否判定について 2. 報告事項 なし

回	開催年月日	審議・報告事項
9	2015年12月1日(火)	1. 審議事項 1) 2017年度看護栄養学部入学試験日程について 2) 休学願の許可について 3) 2016年度非常勤講師の委嘱について 4) 特別の課程の履修証明制度に関する規程の一部改正(案)について 5) 看護学科専任教員の採用に係る募集大綱について 6) 栄養学科嘱託教員の採用に係る募集大綱について 2. 報告事項 1) 2016年度学事暦の一部訂正について 2) 2015年度FD研修会の開催について 3) 2016年度導入予定の事務システムについて 4) 委員会報告 5) 2016年度予算編成方針について 6) 2016年度嘱託教員の雇用契約の継続について 7) 天使大学と北海道薬科大学との連携協定について 8) 2016年度以降の成績の表示について
10	2016年1月13日(水)	1. 審議事項 1) 2016年度非常勤講師の委嘱について 2) 履修規程の一部改正について 3) 「指定校推薦」枠の取消し基準に関する内規について 4) 看護学科教員の採用に係る募集大綱について 2. 報告事項 1) 2016年度学事暦の一部変更について 2) 履修要項(栄養学科進級要件)の変更について 3) 台風・暴風雨・暴風雪等の警報発令時の休講措置の変更について 4) 2015年度年報の作成および活動報告会の開催について 5) 2015年度補正予算について 6) 平成26年度文部科学省私立大学等研究設備費等補助金(ICT活用推進事業)申請に係る協力について 7) 2016年度カトリック医療学生セミナー 8) 委員会報告 9) 2016年度特任教員の雇用契約の継続について 10) 看護学科専任教員の退職願について
11	2016年2月10日(水)	1. 審議事項 1) 2016年度一般入学試験(栄養学科)の合否判定について 2) 退学願の許可について 3) 復学願の許可について 4) 2015年度非常勤講師の委嘱変更について 5) 2016年度非常勤講師の委嘱および委嘱取消について 6) 履修規程の一部改正について 2. 報告事項 1) 2015年度卒業証書・学位記授与式実施要領(案)について 2) 2016年度学事暦の一部変更について 3) 2015年度2月以降の宗務行事予定について 4) 2015年度海外研修旅行の実施について 5) 委員会報告 6) 2016年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座について
臨時	2016年2月16日(火)	1. 審議事項 1) 2016年度一般入学試験(看護学科)の合否判定について 2. 報告事項 なし
臨時	2016年2月23日(火)	1. 審議事項 1) 2016年度 大学入試センター試験利用入学試験(看護学科・栄養学科)の合否判定について 2) 休学願の許可について 3) 復学願の許可について 4) 2016年度科目等履修生の受入れについて 5) 2016年度非常勤講師の委嘱について 2. 報告事項 1) 専任教員の新規担当科目について
臨時	2016年3月1日(火)	1. 審議事項 1) 2015年度卒業判定について 2) 2015年度教職課程修了判定について 3) 2017年度学事歴について 2. 報告事項 1) 『「2014年度学生生活についての調査報告書」に対する天使大学としての回答』について 2) 教務部長の辞任について 3) 教務部長の任命について 4) 研究科長等の内定について

回	開催年月日	審議・報告事項
12	2016年3月17日(水)	1. 審議事項 1) 2015年度進級判定について 2) 2016年度既修得単位の認定授与について 3) 2016年度非常勤講師の委嘱取消について 4) 学生の懲戒処分(案)について 5) 退学願の許可について 6) 履修規程の一部改正について 2. 報告事項 1) 2016年度入学式実施要領(案)について 2) 研究費に関する規程の一部改正について 3) 特別研究費審査委員会規程の一部改正について 4) 2016年度学事歴(決定版)について 5) 2015年度定期試験に関するアクシデント等について 6) 出会いと親睦のゼミについて 7) 2015年度就職決定状況(2016年3月15日現在)について 8) 委員会報告 9) 教員人事について 10) 2016年度校務分掌(委員会委員長等)について 11) 規程改正について

看護栄養学研究科研究科委員会

回	開催年月日	審議・報告事項
1	2015年4月8日（水）	1. 審議事項 1) 2015年度開講科目及び担当教員について 2. 報告事項 1) 2015年度研究科委員会構成員について 2) 2015年度研究科委員会開催予定について 3) 2014年度事業報告及び活動のまとめについて 4) 2015年度看護学専攻研究計画書発表会の実施について
2	2015年5月12日（火）	1. 審議事項 1) 2015年度看護学専攻開講科目について 2) 2015年度看護学専攻学位論文研究計画書の審査について 3) 2015年度看護学専攻特任教員担当科目について 4) 天使大学大学院看護栄養学研究科ホスピス緩和ケアセミナーについて 5) 2016年度大学院看護栄養学部看護学専攻保健師コース入学試験について 2. 報告事項 1) 2015年度入学性の研究指導教員について 2) 2015年度非常勤講師の委嘱取消について 3) 2015年度開講科目及び担当教員について（一部訂正） 4) 天使大学大学院看護栄養学研究科看護学専攻の保健師課程及び専門看護師38単位教育課程の申
3	2015年6月9日（火）	1. 審議事項 1) ホスピス緩和ケア看護専門看護師課程38単位申請について 2) 2016年度看護栄養学研究科学生募集要項について 3) 2015年度非常勤講師の委嘱変更について 2. 報告事項 1) ホスピス緩和ケアセミナーについて 2) 栄養管理学専攻博士前期2年次生の研究指導員の変更について
4	2015年7月14日（火）	1. 審議事項 1) 天使大学学位規程の一部改正（案）について 2) 天使大学学位取得に関する最速の一部改正（案）について 2. 報告事項 なし
5	2015年8月4日（火）	1. 審議事項 1) 休学願の許可について 2) 看護栄養学研究科入学試験成績開示 2. 報告事項 1) 2015年度非常勤講師の委嘱取消について 2) 栄養管理学専攻博士前期課程院生の研究指導の一部委託について
臨時	2015年9月8日（火）	1. 審議事項 1) 2016年度天使大学大学院看護栄養学研究科看護学専攻（保健師コース）学生募集要項について 2) 2016年度天使大学大学院看護栄養学研究科看護学専攻（保健師コース）入試日程について 2. 報告事項 なし
6	2015年9月24日（水）	開催せず
7	2015年10月6日（火）	1. 審議事項 1) 2015年度栄養管理学専攻博士後期課程学位論文研究計画書の審査について 2. 報告事項 1) 2015年度看護学専攻学位論文研究計画書発表会並びに 栄養管理学専攻博士後期課程学位論文中間発表会の実施について 2) 2016年度の長期履修学生の入学手続きについて
臨時	2015年10月20日（火）	1. 審議事項 1) 2016年度看護学専攻（保健師コース）一般入学試験（前期）合否判定について 2. 報告事項 1) 2015年度天使大学大学院FD研修会実施について
8	2015年11月10日（火）	1. 審議事項 1) 2015年度 看護学専攻 学位論文研究計画書の審査について 2) 2017年度 入学試験日程について 2. 報告事項 1) 2016年度看護学専攻（保健師コース）一般入学試験（前期）合格発表に関するミスについて

回	開催年月日	審議・報告事項
9	2015年12月1日（火）	1. 審議事項 1) 天使大学大学院運営会議規程の一部改正（案）について 2) 天使大学大学院科目等履修生規程の一部改正（案）について 3) 天使大学大学院委託生に関する規程の一部改正（案）について 4) 天使大学大学院研究生に関する規程の一部改正（案）について 5) 天使大学大学院長期履修学生規程の一部改正（案）について 6) 特別の課程の履修証明制度に関する規程の一部改正（案）について 7) ティーチング・アシスタント規程の一部改正（案）について 8) 2016年度非常勤講師の委嘱について 9) コース名、区分名、科目名の英語表記について 10) 2016年度学事暦（案）について 2. 報告事項 1) 専任教員の新規担当科目について 2) 2016年度以降の成績の表示について
10	2016年1月13日（水）	1. 審議事項 1) 履修規定の一部変更 2) 2016年度カリキュラム改正による科目の単位の互換について 3) 2016年度非常勤講師の委嘱について 4) 栄養管理学新規科目の英語表記について 5) 2015年度看護学専攻修士論文・課題研究論文の主査・副査について 2. 報告事項 1) なし
臨時	2016年1月27日（水）	1. 審議事項 1) 2016年度看護学専攻修士課程後期試験の可否判定について 2) 学則の一部変更 3) 履修規定の一部変更 4) 論文博士英語試験の可否判定について 2. 報告事項 1) なし
11	2016年2月10日（水）	1. 審議事項 1) 退学願の許可について 2) 2016年度非常勤講師の委嘱取消について 3) 履修規定の一部改正について 4) 新規科目、区分等の英語表記について 2. 報告事項 1) なし
臨時	2016年2月23日（火）	1. 審議事項 1) 学則の一部変更について 2) 履修規程の一部変更 2. 報告事項 1) なし
臨時	2016年3月1日（火）	1. 審議事項 1) 2015年度修了判定について 2) 非常勤講師の委嘱取消について 2. 報告事項 1) 2015年度看護学専攻学位論文審査報告書について 2) 専任教員の新規担当科目について

助産研究科教授会

回	開催年月日	審議・報告事項
1	2015年4月9日（水）	1. 審議事項 なし 2. 報告事項 1) 2015年度学校医・精神神経科医について 2) 2015年度合唱コンクール実施について 3) 2015年度校務分掌・委員会構成について 4) 2015年度助産研究科教授会構成員について 5) 2015年度学園・大学事業計画及び当初予算について
2	2015年4月23日（木）	1. 審議事項 1) 退学願の許可について 2. 報告事項 なし
3	2015年5月13日（水）	1. 審議事項 1) 2016年度 助産研究科学生募集要項について 2. 報告事項 1) 2015年度前期宗務行事予定について
4	2015年6月10日（金）	1. 審議事項 なし 2. 報告事項 1) 2014年度学校法人天使学園・天使大学事業報告および会計収支決算について 2) 2014年度学校法人天使学園・天使大学監事監査報告について
5	2015年8月26日（水）	1. 審議事項 なし 2. 報告事項 1) 人事方針について 2) 2015年度後期宗務行事予定について
臨時	2015年9月16日（水）	1. 審議事項 1) 2015年度助産教育分野の修了判定について 2. 報告事項 なし
6	2015年9月28日（水）	1. 審議事項 1) 2016年度助産基礎分野推薦入学試験の合否判定について 2. 報告事項 1) 2015年度避難訓練アンケートの調査結果について
7	2015年10月14日（水）	1. 審議事項 1) 2015年度非常勤講師の委嘱について 2. 報告事項 1) 教職員修養会の日程について
8	2015年10月21日（水）	1. 審議事項 1) 2016年度助産基礎分野前期試験（一般入学試験及び社会人入学試験）並びに助産教育分野入学試験前期試験の合否判定について 2. 報告事項 なし
9	2015年11月18日（水）	1. 審議事項 1) 2016年度以降の授業評価アンケートについて 2) 2016年度非常勤講師の委嘱について 2. 報告事項 1) クリスマス関連の行事予定について 2) 教職員修養会の日程・内容等について 3) 2016年度会議日程【予定】（第2次案）について
10	2015年12月9日（水）	1. 審議事項 1) 天使大学大学院運営会議規程の一部改正（案）について 2) 天使大学大学院科目等履修生規程の一部改正（案）について 3) 天使大学大学院委託生に関する規程の一部改正（案）について 4) 天使大学大学院研究生に関する規程の一部改正（案）について 5) 特別の課程の履修証明制度に関する規程の一部改正（案）について 6) 2017年度助産研究科入学試験日程について 7) 退学願の許可について 2. 報告事項 1) 2015年度FD研修会の開催について 2) 2016年度導入予定の事務システムについて 3) 2016年度予算編成方針について
臨時	2016年1月13日（水）	1. 審議事項 1) 特任教員の雇用契約の更新について 2) 臨床専任教員の雇用契約の更新について 3) 天使大学研究費に関する規程の一部改正（案）について 4) 天使大学特別研究費審査委員会規程の一部改正（案）について 5) 研究科長等の選考について 2. 報告事項 1) 2015年度年報の作成および活動報告会の開催について

回	開催年月日	審議・報告事項
11	2016年1月27日（水）	1. 審議事項 1) 2016年度助産基礎分野後期試験（一般入学試験、社会人入学試験）および助産教育分野後期試験の可否判定について 2) 退学願の許可について 3) 2016年度 非常勤講師の委嘱について 4) 2016年度天使大学大学院助産研究科学事暦（案）について 5) 助産教育分野に係る2015年度以降入学生対象の教育科目の英語名称について 6) 休学願の許可について 2. 報告事項 1) 台風・暴風雨・暴風雪等の警報発令時の休講措置の変更について
12	2016年2月17日（水）	1. 審議事項 1) 退学願の許可について 2) 天使大学大学院 研究生期間延長願について 2. 報告事項 1) 2015年度 卒業証書・学位記授与式実施要領（案）について 2) 2015年度2月以降の宗務行事予定について
臨時	2016年3月2日（水）	1. 審議事項 1) 2015年度 修了認定について 2. 報告事項 なし
臨時	2016年3月14日（水）	1. 審議事項 1) 教員人事について 2. 報告事項 なし
13	2016年3月16日（水）	1. 審議事項 1) 休学者の許可について 2) 退学者の許可について 3) 2016年度授業科目開講期の一部変更について 4) 2016年度授業科目担当者について 5) 天使大学大学院校務分掌規程の一部改正(案)について 6) 天使大学大学院臨床専任教員内規の一部改正(案)について 7) 再入学に関する規程について 2. 報告事項 1) 2016年度入学式実施要領（案）について 2) 教員人事について

XII. 委員会構成一覽

2015年度 校務分掌 委員会構成一覽

教育研究評議会	学長、看護栄養学研究科長、助産研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、図書館長、宗務部長、教務部長、学生部長、事務局長 助産研究科教務委員長
---------	---

◎学部設置の委員会等

看護学科長 前田明子	栄養学科長 山部秀子	教養教育課長 川口雄一
------------	------------	-------------

区分	委員会名	委員長	委員	人数	委員任期	担当事務局
常設	教務委員会	菅原	教務部長：菅原 看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、教職課程委員長 看護：大野 栄養：西 教養：目時	8	2年	学務課
	学生委員会	久保	学生部長：久保 看護：澤田・高橋 栄養：金澤・岩淵 教養：田島	6	2年	学務課
	宗務委員会	小原	宗務部長：小原 看護：佐藤・ケン・スレイマン 栄養：勝野・松下 教養：(小原) 助産：今崎 事務局：菊池・本田	9 (8)	2年	学務課
設	図書情報委員会	大久保	図書館長：大久保 看護：柴田・前田(朝) 栄養：清水・岡部 教養：堀井 助産：佐々木 図書情報課長	8	2年	図書情報課
	入試委員会	荒川	看護学科長、栄養学科長、教養教育科長 入試・広報室長 看護：針金 栄養：荒川・西 教養：(川口)	8 (7)	2年	入試広報室
	広報委員会	鈴木	看護：草薙・鶴木 栄養：鈴木・岡部・吉田 教養：小原 入試・広報室長	7	2年	入試広報室
委	自己点検評価委員会	荃津	看護栄養学研究科長、助産研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、事務局長 看護：荃津 栄養：金澤 教養：(川口) 助産：(園生)	10 (8)	2年	総務課
	F D 委員会	田島	看護：荒井 栄養：高桑 教養：田島・小原 助産：本宿	4	2年	総務課
	学術振興委員会	高島	看護：荒井 栄養：荒川・高島 教養：堀井 助産：小林	5	2年	図書情報課
員	地域連携等委員会	山口	看護：若山 栄養：山口・長谷川 教養：田島 助産：津田	5	2年	学務課
	就職委員会	清水	看護：佐藤 栄養：清水・百々瀬 教養：新井	4	2年	学務課
	教職課程委員会	伊藤	教職科目担当：伊藤・山部・百々瀬・岩淵・新井	5	2年	学務課
会	研究倫理委員会	堀井	助産研究科長、看護栄養学研究科長 看護：伊藤(治) 栄養：佐藤 教養：堀井 学長指名：吉田(礼)・下田	8 (7)	2年	財務室
	キャンパス・ハウスメント委員会	久保	学生部長、看護：谷 栄養：(久保) 教養：伊藤 助産：本宿 事務局長 職員：平野	7 (6)	2年	総務課
	病原体等安全管理委員会	高島	専門：高島・岩淵 感染予防：武蔵 学校医：大久保	4	2年	財務室
特設	学生懲戒委員会	その都度	学生部長、看護： 栄養： 教養： 助産：	5	2年	学務課
	個人情報保護委員会	その都度	助産研究科長、看護栄養学研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、教務部長、事務局長	7	2年	総務課
時限設置	カリキュラム検討委員会	武蔵	学長 看護学科長 栄養学科長 教養教育課長 教務部長 学長氏名：看護 大野 栄養 山口 教養 小原 学務課 松田 事務局次長	10	2年	総務課
	看護管統学研究所課程増設等検討委員会	武蔵	学長 助産研究科長 看護栄養学研究科長 看護専攻主任 栄養専攻主任 学長氏名：看護 * 菅原 栄養 下田 学務課 松田 事務局次長	10	2年	総務課
看護：学生支援教員			1年：◎荃津・吉田・柴田・澤田・前田(朝)・小澤・矢萩 2年：◎谷・菅原・伊藤・田中・富川・新関・横山 3年：◎針金・佐藤・臺野・鶴木 4年：◎荒井・大野・草薙・高橋・若山			
栄養：学生支援教員			1年：◎百々瀬・勝野・西・岩淵・古川 2年：◎金澤・久保・高島・岡部・高桑・村尾 3年：◎鈴木・下田・山口・峯岸・松下・和田 4年：◎吉田・荒川・大久保・清水・長谷川・白幡			
学長直轄プロジェクト	震災復興支援プロジェクト	リーダー 目時	看護：小澤・矢萩 栄養：百々瀬・高桑 事務局：高山・西村・松田			
	ヘルスケア実践開発プロジェクト	リーダー 山口	看護：菅原 谷 富川 栄養：山口 清水 百々瀬			
後援会講演ワーキング			看護：荒井・臺野 栄養：峯岸・松下 教養：田島 事務局：総務課			

大学院看護栄養学研究科の科長・専攻主任

研究科長：大久保 岩男	看護学専攻主任：吉田 礼維子	栄養管理学専攻主任：佐藤 香苗
-------------	----------------	-----------------

◎ 大学院助産研究科の科長・委員会等

研究科長：園生陽子			
区分	委員会等名	委員長等	委員
常設機関	運営会議	学長	研究科長、教授職
	研究科会議	研究科長	研究科員
	教務委員会	園生	(講義基礎)津田 (講義教育)園生 (実習)本宿 (学生・就職)今崎
	入試広報委員会	津田	園生、本宿、今崎

◎ 理事会設置の委員会

区分	委員会名	委員長	委員	人数	任期	担当事務局	
常 設 機 関	運営連絡会	理事長	学長、副理事長（2名）、常務理事（総務担当理事）、財務担当理事、カトリックセンター長、看護栄養学研究科長、助産研究科長、看護学科長、栄養学科長、宗務部長、監事：土産田 学内評議員：菅原、大久保、園生、佐保	17 (14)	1年	総務課	
	将来構想委員会	理事長	学長、総務担当理事、財務担当理事、宗務部長、図書館長、研究科長(2)、看護学科長、 栄養学科長、教養教育科長、事務局長、教職員で理事・評議員：菅原、大久保、園生	13			
	苦情処理 委員会	委員	互選	理事長指名：教員＝ 職員： 教授会選考： ・ 職員会議選考：			7
		代理委員	その都度互選	理事長指名：教員＝ 職員： 教授会選考： ・ 職員会議選考：			5
	懲戒委員会	理事長指名	理事長が任命する5名	5			
	ハラスメント防止委員会	互選	(理事)小川、原、松岡、菅原 (教員)前田(明)、堀井 (職員)：白石	7			
	個人情報保護委員会	互選	理事長、学長、常務理事、理事(理事会選出)：菅原、事務局長	5			
衛生委員会	学長	産業医：辻崎正幸(天使病院)、看護：若山 栄養：山部 教養：田島 事務局長 事務局：豊島(保健師)加藤	7	財務室			
カトリックセンター	理事長任命	センター長：小原 カトリック司祭、常務理事、宗教教育担当者	4 (3)	2年	学務課		

XIII. 委員会の活動報告

2015年度 助産研究科教務委員会活動報告

委員会組織	委員長：園生 陽子 委員：本宿 美砂子、今崎 裕子、津田 万寿美、小林 由紀子、佐々木 恭子、三浦 恵津子、斎藤 慎子
委員会開催数	15回
審議・報告事項	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨地実習謝金について ・ 授業評価アンケート、学生満足度調査実施について ・ 2015 年度以降 教育分野 授業科目英語名称について ・ 学籍異動について ・ 前期（後期）定期試験時間割および前期（後期）評価日程について ・ 2015 年度 前期定期試験時間割案について ・ 定期試験解答用紙の取り扱いについて ・ 実習指導教員の委嘱について ・ 2015 年度 科目担当者の変更について ・ 2016 年度 教育計画(案)について ・ 2015 年度「助産教育分野」修了判定について ・ 2015 年度 後期試験日程について ・ 2016 年度 学事暦について ・ 2016 年度 科目担当者および非常勤講師の委嘱について ・ 2016 年度 履修要項・授業概要について ・ 2016 年度 最終試験(基礎分野)について ・ 2016 年度 予算について ・ 台風等の措置について ・ 退学願の許可について ・ 研究生期間延長願について ・ 2016 年度 授業科目開講期の一部変更について ・ 2015 年度 修了判定について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2015 年度 合唱コンクール実施要領 ・ 2015 年度 自衛消防訓練の実施について ・ マタニティサイクル独立助産実習について ・ マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅰ・Ⅱの宿泊について ・ 国際助産学実習の日程について ・ 2015 年度 天使大学大学院助産研究科就職説明会について ・ ハラスメントに関する講演会の実施について ・ 2015 年度助産研究科助産教育分野 学位記授与について ・ 2016 年度教育計画(案)について ・ 2015 年度補正予算および2016 年度予算について ・ 規程の改正について ・ 授業概要の作成について ・ 科目等履修生募集要項について 	

2015年度 入試・広報委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：津田万寿美 委員：園生陽子、今崎裕子、本宿美砂子</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>8回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年度助産研究科学生募集要項について ・2016年度助産研究科入学試験 試験問題出題者について ・広報資料「天使大学入学試験に関する情報開示」について ・2015年度助産研究科広報活動計画について（助産研究科 オープンキャンパスを含む） ・助産研究科 ポスター・フライヤーについて ・本学学生への大学院説明会について ・新入生アンケートについて ・本学学生への大学院説明会の反省について ・助産研究科ミニオープンキャンパスについて ・助産研究科オープンキャンパスについて ・2016年度助産研究科パンフレットについて ・助産研究科入学試験 合否判定基準について ・2016年度 助産研究科推薦入学試験 合否判定について ・2016年度 助産研究科入学試験日程について ・2017年度 助産研究科入学試験日程について ・助産研究科オープンキャンパスの反省について ・2016年度 助産研究科前期試験 合否判定について ・助産研究科 学生募集の方策について ・2016年度助産研究科広報活動計画について ・2016年度助産研究科 入試・広報委員会予算について ・2016年度 助産研究科後期試験 合否判定について ・2015年度 年報（入試・広報委員会関係部分）について ・助産研究科 入学試験制度について ・2017年度 助産研究科 パンフレットについて ・2016年度 オープンキャンパスについて <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産研究科 入試・広報委員会予算について ・2016年度入学試験日程について ・2016年度広報活動に向けた学内勉強会について ・道内看護系大学訪問について ・入学許可同封書類について ・2015年度 助産研究科オープンキャンパスのUstream視聴者数について 	

2015年度 宗務委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：小原琢 委員：ケン・スレイマン、佐藤昇子、勝野由美子、松下真美、今崎裕子 菊池史恵、本田英里 学務課（～2015年4月30日：堀切、2015年5月1日～：渡邊）</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>7回（2016年1月27日現在）</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イースターの集い ・聖堂の生花 ・カトリック医療関連学生セミナー ・ギデオ教会の聖書 ・毎週のミサ ・前期修了・卒業感謝のミサ ・クリスマス関連の日程 ・クリスマスの集い ・クリスマス献金 ・死者追悼のミサ ・教職員修養会 ・「2014年度 学生生活についての調査報告書」の改善要求項目に対する回答書 ・宗務委員会規程の改正作業 ・2015年度宗務委員会予算 ・新年のミサ ・退職される教職員のための感謝ミサ ・修了・卒業感謝のミサ ・年報、自己点検評価報告書 ・灰の儀式 <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出会いと親睦のゼミ ・学部教授会、助産研究科教授会、教育研究評議会 提案書 ・宗務委員会の職員交代 ・JCNA（カトリック看護師）札幌 ミサ ・教職員修養会 ・カトリック医療関連学生セミナー ・修了・卒業感謝のミサ ・毎週のミサ ・チャペルアワー ・宗務委員会規程の改正作業 ・修養会 ・屋外クリスマスツリーのイルミネーション ・クリスマスオリエンテーション ・新年のミサ ・2016年度活動計画書、予算見積書 	

2015年度 図書情報委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：大久保岩男 委員：柴田和恵、前田朝子、清水真理、岡部哲子、堀井泰明、佐々木恭子、平野敦子</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>10回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後援会助成図書第1回～第9回選定について ・2015年度活動計画及び図書資料費予算配分額について ・インターネット動画の講義使用について ・天使祭一般開放時の企画について ・天使祭期間中の図書館及び情報処理室の利用について ・2015年度後期開閉館予定表(案)について ・メディカルオンラインライブラリーの無料トライアルについて ・無料トライアルの結果報告 ・Adobe Flash Player の更新について ・本学試験期間中の学外利用制限(休止)について ・Science Direct 提案の契約意向調査について ・2016年洋雑誌の継続購読及び新規購入について ・EBSCO のMEDLINE 及びCINAHL Complete 版の無料トライアル ・左記 Complete 版等無料トライアルの結果 ・2015年度秋の文献検索ガイダンス実施について ・看護学科2014年度末カリキュラム評価アンケートからの意見について ・機関リポジトリの今後について ・看護学科学生からの要望：①国試対策図書の図書館展示 ②事例研究文献複写代の公費処理 ③メディカルオンラインの導入希望 ④キャップ付ペットボトルや水筒の図書館持ち込み ・2014年度学生生活調査報告に基づく改善要求について ・委員会規程等の改正について ・学生連絡用のメーリングリストについて ・2016年度図書館および情報処理室活動計画(案) ・2016年度図書館および情報処理室予算(案) ・2016年度図書資料費予算配分(案) ・2016年度前期開閉館予定表(案) <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2014年度蔵書点検結果報告 ・2014年度図書資料費執行状況(結果報告) ・2015年度図書資料費執行状況(毎回) ・受贈図書の選定：2015年4月23日(木)～5月25日(月) ・事務局の5月1日付異動について ・2015年度図書情報課職員体制について ・天使祭の一般開放について(報告) ・北海道地区私立大学図書館協議会第2回業務研究会の本学開催について ・第65回北海道地区大学図書館協議会総会 日時：2015年8月21日(金) 会場：札幌大谷大学 ・文献管理ツールENDNOTE X7(ユサコ)及びMENDELEY(エルゼビア)の紹介について ・ENDNOTE セミナーの開催について：2016年3月10日(木)・11日(金)14時～ 6101 講義室 	

2015年度 自己点検評価委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：荃津智子 委員：園生陽子、大久保岩男、前田明子、山部秀子、川口雄一、金澤康子、佐保未男</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>5回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015年度活動方針・活動内容について ・2014年度年報の作成について ・大学基準協会改善報告書について ・教員業績システムについて ・自己点検評価委員会の規程改正について ・2015年度活動報告会について ・2015年度年報作成について ・2016年度活動計画及び予算について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015年度予算について ・大学基準協会改善報告書の受理について ・学内自己点検評価システムのあり方について ・教員業績情報システムについて 	

2015年度 FD委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：田島忠篤 委員：荒井春生、高桑暁子、小原琢、本宿美砂子</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>10回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年度以降の授業評価アンケートについて ・FD研修会について ・研修会の参加について ・ファカルティ・ディベロップメントに関する規程の改訂案について ・2016年度活動計画案について ・2016年度予算案について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015年度の活動計画と予算について ・2015年度の学生による授業評価アンケート実施について ・2016年度以降の授業評価アンケートの教授会提案結果について ・2016年度予算決定スケジュールについて 	

2015年度 学術振興委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：高島郁夫 第10回委員長代理：荒川義人 委員：荒井春生、荒川義人、堀井泰明、小林由希子</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>10回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015年度活動計画について ・2015年度前期研究報告会について ・前期研究報告会のプログラムについて ・2015年度講演会の企画について ・2015年度前期講演会について ・前期講演会報告 ・研究のための「よろず相談」について ・査読に対する回答要領(案)について ・査読に対する回答チェック項目(案)について ・研究のための「よろず相談」について ・研究に関するアンケート調査(案)について ・研究に関するアンケート調査の結果について ・2015年度後期講演会について ・2015年度後期講演会報告 ・2015年度後期研究報告会のプログラムについて ・学術振興委員会規程及び紀要投稿規程について ・2016年度活動計画(案)について ・2016年度予算(案)について ・紀要第16巻第2号の応募状況と再募集の可否について ・紀要第16巻第1号掲載可否判定について ・第三査読者への査読依頼について ・紀要第15巻第2号投稿原稿の修正原稿提出期限延長について(査読者の承諾について) ・2015年度年報：自己点検・評価報告について ・紀要第三者査読の結果と最終判定について ・紀要第15巻第2号投稿の査読後修正中断執筆者への対応について ・次年度講演会講師の選考について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紀要第15巻第2号の投稿及び査読者について ・紀要第16巻第1号の原稿募集について ・紀要第16巻第1号の応募状況 ・紀要第16巻第1号投稿数について ・紀要第16巻第1号の発刊について ・紀要第16巻第2号の原稿募集について ・紀要第16巻第2号投稿予定について ・紀要第17巻第1号の原稿募集について ・2014年度後期研究報告会参加者アンケート集計結果 ・2015年度前期研究報告会参加者アンケート集計結果 ・研究に関するアンケート調査の再案内について 	

2015年度 地域連携等委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：山口敦子 委員：若山好美・長谷川めぐみ・田島忠篤・津田万寿美</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>8回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座について ・2015年度委員長不在時の委員長代理について ・2015年度地域連携事業活動の把握と報告書について ・2015年度北海道薬科大学との連携事業（連携公開講座・夕張地域医療体験）について ・2015年度東区5者連携事業について ・2015年度「ひがしく健康・スポーツまつり」について ・2016年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座の実施案・ポスターについて ・2016年度活動計画書案・予算案について ・2015年度自己点検評価について ・その他 <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015年度活動計画および予算について ・2015年度地域連携等委員会役割分担について ・2015年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座進捗状況について ・2015年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座実施・報告について ・2015年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座意見交換会実施報告について ・2015年度東区5者連携事業について ・2015年度夕張地域医療体験について ・2016年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座の実施案について ・平成28年度道民カレッジ連携講座前期分申込、名義後援願について ・2015年度地域連携事業活動報告書の提出について ・2016年度予算ヒアリングについて ・その他 	

2015年度 研究倫理委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：堀井泰明 委員：園生陽子、大久保岩男、佐藤香苗、吉田礼維子、下田妙子、伊藤治幸</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>10回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書類提出締切日、審査の段取り、委員会開催日について ・研究計画の倫理審査（審査件数38件、内、取り下げ3件） ・国の新倫理指針に合わせた本委員会規程の改正について ・倫理審査終了後の研究計画等の変更届について ・2016年度予算（新規）について ・2016年度活動計画について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学における研究計画の倫理審査手続きに関する説明会開催について 	

2015年度 キャンパス・ハラスメント対策委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：久保ちづる 委員：伊藤 進、本宿美砂子、谷規久子、佐保末男、平野敦子</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>7回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015年度活動方針・活動内容について ・講演会の開催について ・啓発DVD上映会開催について ・ガイドライン配布について ・規程改正案について ・2016年度活動計画書及び予算について ・次年度予算案について ・2015年度活動報告について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015年度予算について ・2015年度相談窓口の周知について ・講演会の参加状況について 	

2015年度 助産研究科会議報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：園生 陽子 委員：本宿 美砂子、今崎 裕子、津田 万寿美、小林 由紀子、佐々木 恭子、三浦 恵津子、斎藤 慎子</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>12回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独立助産実習施設と院生配置について ・基礎実習の教員および院生配置について ・実習施設（病院）の就職説明会について ・基礎実習要項およびオリエンテーション予定について ・臨床指導者会議について ・ミニオープンキャンパスについて ・オープンキャンパスについて ・基礎実習補習実習について ・基礎実習評価について ・教育分野修了のミサ、学位記授与、茶話会について ・推薦入試役割担当について ・前期入試役割担当について ・後期入試役割担当について ・授業評価アンケート項目の見直しについて ・2016年度 予算について ・2015年度 修了ミサ、学位記授与式の役割担当について ・臨床指導者FDについて ・2015年度 年報作成について ・2016年度 実習施設について ・2016年度 新入生オリエンテーションについて <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各委員会報告 ・2015年度 合唱コンクール実施要領 ・国際助産実習の日程について ・実習教材の購入と納品予定について ・学会・研究会の開催について（北海道母性衛生学会、思春期研究会） ・北海道「時代の親づくり事業」性教育授業の依頼について ・各学会・総会参加報告（日本助産師会、日本助産学会、全国助産師教育協議会） ・特別統合課題研究について ・発展展開科目について 	

XIV. 図書館の利用状況

2015年度入館者統計(人数)

学科・学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看護学科	1,032	1,072	1,710	1,496	700	887	1,523	1,008	845	1,050	212	50	11,585
栄養学科	805	742	1,012	1,228	322	613	954	895	516	814	479	287	8,667
助産研究科	218	163	124	55	101	62	160	79	8	11	53	31	1,065
看護学専攻	26	29	31	36	26	25	33	27	24	36	35	13	341
栄養管理学 専攻	15	15	8	7	9	5	6	7	8	14	8	9	111
科目等履修生	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
教職員	200	219	203	157	166	165	156	182	179	168	201	140	2,136
学外者	31	53	42	32	28	34	27	35	26	8	19	8	343
合計	2,327	2,294	3,130	3,011	1,352	1,791	2,859	2,233	1,606	2,101	1,007	538	24,249

2015年度図書・視聴覚資料貸出統計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看護学科	841	850	1,533	1,101	827	982	1,468	1,136	760	663	159	60	10,380
栄養学科	545	671	954	798	270	556	899	572	315	240	210	60	6,090
助産研究科	235	279	280	100	225	89	222	150	8	8	57	55	1,708
看護学専攻	50	44	44	77	35	40	63	61	62	43	56	34	609
栄養管理学 専攻	18	20	18	18	23	14	14	20	14	13	21	10	203
科目等履修生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教職員	274	287	251	181	177	187	187	152	174	147	161	147	2,325
学外者	10	23	35	13	8	15	23	34	28	10	1	0	200
合計	1,973	2,174	3,115	2,288	1,565	1,883	2,876	2,125	1,361	1,124	665	366	21,515

XV. 情報処理室の利用状況

年間利用状況

学科・学年 室	看護学科				看護 小計	栄養学科				栄養 小計	各室 計
	1年	2年	3年	4年		1年	2年	3年	4年		
4301室(日中)	922	1,556	2,003	1,528	6,009	806	2,329	5,617	3,376	12,128	18,137
4301室(夜間)	200	322	445	711	1,678	154	208	614	472	1,448	3,126
4302室(日中)	3,978	2,956	1,694	1,065	9,693	5,365	3,196	4,131	2,098	14,790	24,483
4302室(夜間)	1,025	442	620	624	2,711	557	278	1,071	445	2,351	5,062
総計	6,125	5,276	4,762	3,928	20,091	6,882	6,011	11,433	6,391	30,717	50,808

月別学科学年利用状況

学科・学年 月	看護学科				看護 小計	栄養学科				栄養 小計	各室 計
	1年	2年	3年	4年		1年	2年	3年	4年		
4	705	667	306	474	2,152	717	579	940	554	2,790	4,942
5	630	614	369	594	2,207	733	436	1,612	706	3,487	5,694
6	958	629	1,049	658	3,294	1,189	903	1,410	817	4,319	7,613
7	804	519	740	421	2,484	1,039	809	1,587	844	4,279	6,763
8	0	152	201	123	476	8	19	374	440	841	1,317
9	322	114	458	208	1,102	507	97	1,323	607	2,534	3,636
10	707	653	536	499	2,395	702	344	1,215	683	2,944	5,339
11	951	702	373	607	2,633	772	1,205	641	811	3,429	6,062
12	482	601	179	302	1,564	479	664	1,295	569	3,007	4,571
1	523	526	502	29	1,580	627	885	714	130	2,356	3,936
2	32	75	34	13	154	67	53	160	118	398	552
3	11	24	15	0	50	42	17	162	112	333	383
総計	6,125	5,276	4,762	3,928	20,091	6,882	6,011	11,433	6,391	30,717	50,808

XII. 施設・設備の状況

大学設置基準との対比 (単位：m²)

	本学の現有面積	大学設置基準面積	大学設置基準との差 (基準外を除く)
校地面積	30,390	6,910	23,550
校舎面積	14,124	6,402	7,722

校舎内訳

	建設年	経過年数	面積(m ²)	備考
1号館	1976 (S51)	35	937.76	2階建
2号館	1995 (H 7)	16	707.43	2階建 (耐震構造)
3号館	1963 (S38)	48	1,977.01	3階建 (耐震補強済)
4号館	1971 (S46)	40	2,429.06	3階建 (耐震補強済)
5号館	1980 (S55)	31	396.27	2階建
6号館	2000 (H12)	11	2,674.91	6階建 (耐震構造)
7号館	2002 (H14)	9	2,330.13	4階建 (耐震構造)
8号館	2004 (H 7)	7	1,855.69	4階建 (耐震構造)
体育館	1976 (S51)	35	736.52	
中沼グラウンド更衣室	1992 (H 4)	19	79.38	平屋建
計	—	—	14,124.16	

学部・大学院研究科ごとの講義室、演習室等の面積・規模

学部・研究科	講義室・演習室・学生学習室等	室数	総面積(m ²)	専用・共用の別	収容人員(総数)	学生総数	在学生1人当たり面積(m ²)	備考
看護栄養学部	講義室	12	1,519	共用	1,223	754	2.01	看護栄養学研究科と共用
	演習室	12	345	共用	221	805	0.52	大学院と共用
	学生学習室	2	288	共用	160	754	0.38	
看護栄養学研究科	講義室							
	学生学習室	2	272	共用	92	11	24.72	助産研究科と共用
助産研究科	講義室	2	227	専用	51	51	4.45	
	学生学習室	1	246	共用	82	62	3.96	看護栄養学研究科と共用
体育館		1	737					
講堂		1	737					

学部の学生用実験・実習室の面積・規模

分 類	室 名	収容人数	面積(m ²)	1人当り面積(m ²)
実験・実習室 (看護学科)	第1看護実習室	100	346	3.46
	第2看護実習室	10	41	4.10
	第3看護実習室	20	46	2.30
	第4看護実習室	10	23	2.30
	第5看護実習室	10	27	2.70
実験・実習室 (栄養学科)	理化学実験室	60	223	3.72
	生理学実験室・微生物学実験室	65	205	3.15
	動物実験室	5	6	1.20
	給食経営管理自習室・実習食堂	130	350	2.69
	第2臨床栄養実習室	60	386	6.43
	官能検査室	10	30	3.00
	食品・調理実験実習室(準備室含む)	60	257	4.28
	第1カウンセリング室	3	8	2.67
	第2カウンセリング室	3	9	3.00
	栄養教育実習室	60	155	2.58
	第1臨床栄養実習室	15	45	3.00
実験・実習室(共通)	和室	10	69	6.90
情報処理室	第1情報処理室	60	113	1.88
	第2情報処理室	56	138	2.46
計		747	2,477	3.32

大学院の学生用実験・実習室の面積・規模

分 類	室数	総面積 (m ²)	収容人数 (総数)	収容人員1人 当りの面積(m ²)	使用研究科等	備考
実習室	19	2,477	747	3.32	看護栄養学研究科	看護栄養学部と共用
実習室	1	174	40	4.35	助産研究科	
計	20	2,651	787	3.37	—	—

XIII. 財務状況

貸借対照表関係の財務比率表

(%)

	分類	比率	評価	算式	2014年度	他法人
1	自己資金は充実されているか	自己資金構成比率	△	$\frac{\text{自己資産}}{\text{総資産}}$	83.9	81.4
2		消費収支差額構成比率	△	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総資産}}$	3.3	△14.6
3		基本金比率	△	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	99.7	96.0
4	長期資金で固定資産は賄われているか	固定比率	▼	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	86.2	90.9
5		固定長期適合率	▼	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金} + \text{固定負債}}$	81.6	83.5
6	資産構成はどうか	固定資産構成比率	▼	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	72.3	73.9
7		流動資産構成比率	△	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	27.7	26.1
8		減価償却比率 (図書を除く)	～	$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{減価償却資産取得額}}$	47.9	44.6
9	負債に備える資産が蓄積されているか	内部留保資産比率 [※]	△	$\frac{\text{内部留保資産}}{\text{総資産}}$	45.0	28.8
10		流動比率	△	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	243.2	227.5
11		前受金保有率	△	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	262.7	274.6
12		退職給与引当預金率	△	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	91.6	62.1
13	負債の割合はどうか	固定負債構成比率	▼	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資産}}$	4.7	7.2
14		流動負債構成比率	▼	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総資産}}$	11.4	11.5
15		総負債比率	▼	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	16.1	18.6
16		負債比率	▼	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	19.2	22.9

※内部留保資産 = その他の固定資産 + 流動資産 - 総負債

(注1)「評価」は△：高い値が良い ▼：低い値が良い ～：どちらともいえない を示す。

(注2)「他法人」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」2014年度版による。

消費収支計算書関係の財務比率表

(%)

	分類	比率	評価	算式	2014年度	他法人
1	経営状況はどうか	帰属収支差額比率	△	$\frac{\text{帰属収入} - \text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	5.8	9.5
2	収入構成はどうなっているか	学生生徒等納付金比率	～	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	80.7	79.6
3		寄付金比率	△	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	1.1	1.2
4		補助金比率	△	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	14.1	11.7
5		人件費比率	▼	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	63.2	53.7
6	支出構成は適切であるか	教育研究経費比率	△	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	25.5	29.6
7		管理経費比率	▼	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	5.3	6.5
8		借入金等利息比率	▼	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰属収入}}$	0.0	0.4
9		基本金組入率	△	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	9.5	5.8
10		減価償却費比率	～	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{消費支出}}$	7.3	14.5
11		収入と支出のバランスは取れているか	人件費依存率	▼	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	78.4
12	消費収支比率		▼	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	104.2	96.1

編集後記：

天使大学大学院助産研究科年報 - 自己点検・評価報告書 - 2015 年度版が発行となりました。年報は、教育研究活動の評価を教職員間で可視化するシステムづくりの一つとして大学全体で次年度の課題を明らかにするものとして活用していただければと考えております。

今後も大学の課題を全教職員が認識し、課題の改善に向けた活動へと発展する自己点検評価活動を目指したいと思います。

大学の自己点検評価活動についての忌憚のないご意見等を今後もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2016 年 6 月

自己点検評価委員会委員長 山部 秀子

2016 年度 自己点検評価委員会

委員長：山部 秀子（栄養学科）

委員：大久保岩男（看護栄養学研究科長）

園生 陽子（助産研究科長）

佐藤 昇子（看護学科長）

山口 敦子（栄養学科長）

川口 雄一（教養教育科長）

佐保 末男（事務局長）

吉田礼維子（看護学科）

総務課：上村 俊哉

2015年度

天使大学大学院 助産研究科

年 報

—自己点検・評価報告書—

2016年6月発行

自己点検評価委員会

天使大学

〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1番30号

TEL 011-741-1051 FAX 011-741-1077

<http://www.tenshi.ac.jp>
